

第54回 全道造形教育研究大会 旭川大会

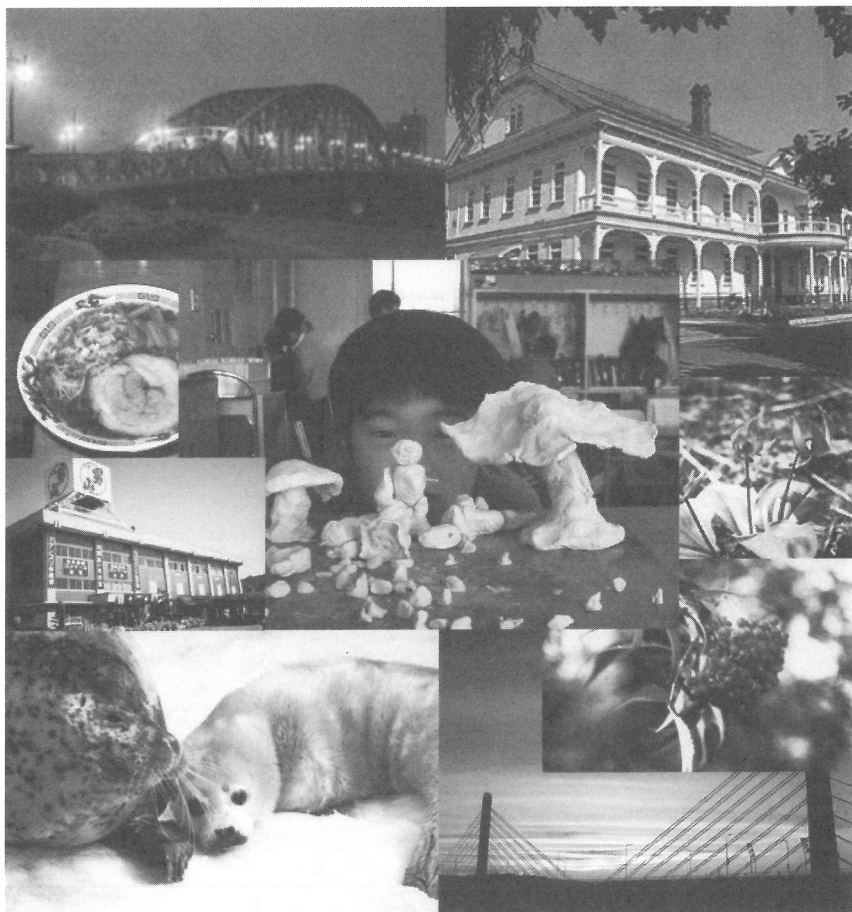


豊かに感じ
おもいをふくらませ
あらわす喜びを

- 会期 2004.7.28 (水)
- 会場 旭川市立神楽中学校

第54回

全道造形教育研究大会旭川大会



豊かに感じ おもいをふくらませ あらわす喜びを
～生の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて～

■とき 2004・7・28

■ところ 旭川市立神楽中学校



主催 ○北海道造形教育連盟

○第54回全道造形教育研究大会旭川大会運営委員会

後援 ○北海道教育委員会 ○旭川市教育委員会 ○旭川市小学校長会

○旭川市中学校長会 ○旭川市教育研究会 ○上川管内教育研究会

○上川造形教育研究会 ○北海道私立幼稚園協会旭川支部

○北海道高等学校文化連盟

目 次

挨拶・祝辞	P 1～P 5
北海道造形教育連盟委員長	富 田 泰
全道造形教育研究大会旭川大会運営委員長	及 川 輝 夫
北海道教育庁上川教育局長	西 田 俊 夫
旭川市教育委員会教育長	鳥 本 弘 昭
旭川市教育研究会長	佐 藤 誠 一
大会日程	P 6～P 10
開会式次第・閉会式次第	
公開授業 分科会一覧	
会場案内図 記念講演	
研究概要	P 11～P 18
北海道造形教育連盟研究概要	
旭川大会研究概要	
公開授業・提言	
公開授業	P 19～P 30
提言	P 31～P 42
全道造形教育ネットワーク紹介	P 44
北海道造形教育連盟規約	P 46
北海道造形教育連盟名簿	P 47
全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧	P 50
旭川大会役員一覧	P 52
あとがき	P 54



あ い さ つ

～あらわす喜びを～

北海道造形教育連盟委員長

富 田 泰

北海道の屋根といわれる大雪山連峰(旭岳)への登山口, 上川盆地の大自然の恵みによる良質多収な米作地帯と謳われ, また豊かな森林資源の価値ある歴史を造ってきた旭川市において, 「第54回全道造形教育研究大会旭川大会」が開催されますことに心から感謝申し上げます。また, 今求められる造形教育について話し合われることを皆様と共に喜び合いたいと思います。

全道造形教育研究大会の歴史を振り返りますと, 50年程前, 当地旭川で第3回全道図画工作教育集会(改称前)が開催されました。「美術教育の指導とは何か」の大会テーマで造形教育のあるべき姿が求められた大会でありました。その後, 1970年の第20回大会に続き, 第29回大会, 第36回大会, 第43回大会の4回が開催され, どの大会も日常の実践に根を下ろした実り多い研究大会となりました。これが全道の図工・美術教育の先達として歩んできた旭川の足跡であります。そして今, 旭川における6回目の研究大会, 第54回大会が開催されます。

新たな教育改革が発信され, 新学習指導要領と学校週5日制の完全実施3年目の実践年を迎えている今年, すでに軌道にのった旭川市教育研究会図工美術部の歩みと実践が, 実りある提言と大きな成果を上げることを期待しております。改革を推進する方向性が示され, 21世紀の未来を見据えた研究と研修が求められていますが, その観点からも今大会の開催意義と価値が語られるものと思います。「豊かに感じ おもいをふくらませ あらわ

す喜びを」が旭川大会のテーマとして設定されました。新しい学力観に立ち, 一人一人の個性を生かす教育が, より積極的に求められる中, その課題に真摯に取り組む旭川の先生方に心から敬意を表したいと思います。

大会テーマの“喜び”とは, 子ども自身の喜びであり, 子どもの側に立った造形活動の改革の推進内容であります。いうまでもなく, 子ども主体の活動であり, 教師が如何に支援すべきかを深めていきたいものです。また, 研究主題の“生の造形教育”に託された「生きる力」の育成を前提とする取組に魅せられるものがあります。

ここに, 大会運営にあたりました旭川市教育研究会図工美術部の皆様の御尽力に感謝し, 北海道教育委員会, 旭川市教育委員会, 各教育関係者の方々の心からの御支援御協力に厚くお礼申し上げます御あいさつといたします。





「生(なま)の造形教育」の創造を

第54回全道造形教育研究大会旭川大会

運営委員長 及川輝夫

「カムイミンタラ」(神々の遊ぶ庭)とアイヌ語で命名された壮大な大雪山系を遥かに望み、北海道の母なる川「石狩川」のほとり、上川200万石の米どころ「旭川市」で、第54回全道造形教育研究大会が開催されるにあたり、開催地を代表して全道各地から御参会の皆様を心より歓迎申し上げます。

さて、今日わが国では、新世紀を切り拓くたくましい日本人の育成を目指した教育改革が進められており、各学校では「生きる力と豊かな心」を育てる特色ある学校づくりのために日夜、研鑽を重ねていることと思います。

旭川では、造形教育は子どもの人間形成に大きく関わり、その成長に欠くことのできないものであり、一層重要な位置を占める教科であると考えて、過去の5回の旭川大会でも常に新しい課題に挑戦し、全道の造形教育の仲間と熱い論議を重ね、誇りをもって実践に取り組んできたところです。本大会では、テーマを「豊かに感じ おもいをふくらませ あらわす喜びを」としました。そこには、「子ども自身の試行錯誤を大切にし、体験のプロセスを楽しみながら生き生きと表現できるように」という願いが込められています。

研究主題は、「生の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて」としました。これは、ともすると、概念や技法指導が中心となる従来の指導の在り方から脱し、素材との「生」の出合いの演出(最初に素材を感じる部分を大切にしたい出会い)と「生」のプロセス(自分でひらめきながら体験的に制作するプロセスの明確化)をどう授業に具体

化するかを探るものです。新しい主題「生(なま)」についての論議を大いに期待しております。

11年振りの開催となる今大会には、旭川市教育研究会図工美術研究部が総力で取組みましたが、さらに上川造形教育研究会の全面協力を得て、若い先生方の実践と研究の成果を発表していただけることになりました。本大会を支える旭川の実践者とともに、本大会を通して、より一層豊かな造形活動が生まれる論議を期待します。

本大会の開催にあたり、北海道教育委員会、旭川市教育委員会の御指導を賜り、さらに教育関係や関係する多くの皆様、会場校の神楽中学校の皆様にご支援、御協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。





研究大会の開催を祝して

北海道教育庁上川教育局長

西田 俊夫

第54回全道造形教育研究大会旭川大会が、豊かな自然と薫り高い文化に彩られた街、旭川市において開催されますことを心からお喜び申し上げます。

北海道造形教育連盟並びに旭川市教育研究会図工美術部におかれましては、長年にわたり造形的な創造活動の基礎的な能力を伸ばし、美術を愛好する心情をはぐくむ指導に関する実践研究を積み重ね、大きな成果をあげておりますことに深く敬意を表する次第であります。

さて、我が国においては、21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成を目指して、教育改革が大胆かつ着実に推進されております。

学校教育においては、創意工夫を生かした教育を展開する中で、基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、それを基に、自ら課題を見付け、自ら学び考える力や豊かな人間性などの「生きる力」をはぐくむことが求められております。

とりわけ、子ども一人一人が日常の中に見られる対象について、その本質や美しさなどの価値に気付いたり、見方や感じ方をより深めたりすることを通して、豊かな情操を養い、生涯にわたって地域の文化を創造しようとするなどの豊かな心を育成することは、重要な課題となっております。

このようなことから、各学校においては、一人一人が想像力を発揮し、主体的、創造的に表現することを通して達成感を味わうとともに、自然や美術作品などのよさや美しさなどを感受し、日常生活を楽しむ充実させていこうとする態度を培う創造活動や鑑賞活動を展開する必要があります。

こうした中、本研究大会が「豊かに感じおもしろいをふくらませ あらわす喜びを」と掲げた大会テーマのもと、幼稚園の公開保育、小・中学校、高校の公開授業及び全道各地の実践交流を通して、対象のよさを驚きや感動をもって味わい、自らの思いや考えを自分なりの方法で表すなど、一人一人の自己実現を促す指導等について研究を深められますことは、誠に時宜を得たものであり、その研究成果が各学校の教育活動に十分生かされますよう大きな期待を寄せているところであります。

会員及び御参会の皆様方におかれましては、今後とも、子どもたちの感性を磨き、豊かな情操を養うことができる教育活動の充実に向け、一層御尽力くださいますようお願い申し上げます。

結びに、研究推進や大会運営に携わってこられました関係各位に深く感謝申し上げますとともに、北海道造形教育連盟並びに旭川市教育研究会図工美術部のますますの御発展と会員各位の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。





お祝いのことば

旭川市教育委員会教育長

鳥本 弘 昭

美しく雄大な大雪山連峰を仰ぎ、清流石狩川の流れる旭川市において、第54回全道造形教育研究大会旭川大会が、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

当旭川市は、中原悌二郎賞を主宰する「彫刻の街」として、市内の至る所に彫刻作品を見ることができます。買物公園、常磐公園、各美術館、そして橋の欄干などに実に120を超える彫刻作品が設置されており、市民にとってこれらの作品は日常の風景となっております。街並みを歩きながら、自然と芸術文化にふれることのできる当地において、全道各地から造形教育に携わっている多数の先生方をお迎えできることは大きな喜びであります。

本市は、道内初の中核市として、文化の香り高い「北の文化の中心都市」をめざしております。そのために、楽しく自由に学べる生涯学習の推進とともに、豊かな創造性を育む学校教育の推進に努めております。

未来の文化創造の担い手である児童生徒に豊かな創造性を育むためには、創造的な能力の基礎を培い、豊かな情操を養う図画工作・美術科の指導を充実する必要があります。とりわけ、自らの思いを生き生きと表現し、つくり出す喜びを味わい、創造活動を通じて、生涯にわたって生活を明るく豊かなものにしていこうとする心情を育てていくことが、大切であります。

このような折、本研究大会が、「豊かに感じ おもいをふくらませ あらわす喜びを」の大会テーマのもと、今後の造形教育の望ましいあり方について研究を深められますこと

は、誠に意義深いことであり、本研究大会の成果が全道各地に広がり、北海道の造形教育が一層充実・発展するよう大きな期待を寄せているところであります。

終わりにになりましたが、本大会の開催に当たり、御尽力いただきました関係各位に心から敬意を表するとともに、本大会の御成功と御参会の皆様のお活躍を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。





旭川大会の成功を祈念して

旭川市教育研究会長

佐藤 誠 一

川と緑が織りなす美しい大地、そして彫刻の街として多くの人々に親しまれている旭川市において、第54回全道造形教育研究大会旭川大会が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

昨今の教育改革の中、学習指導要領の一部改訂などを通して、学習指導要領の基準性が見直され、確かな学力を確実に定着させるというねらいが明確にされました。

特に、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を個性を生かす教育の中ではぐくむことが重視されています。

造形教育において、子どもが五感を通して身体で感じとった新鮮な驚きや感動を想像力を働かしてふくらませ、自分の感性や自分なりの技能を駆使しながら造形表現していく活動は、まさに個性を生かし問題を解決する資質や能力を磨き高めていく問題解決の学習過程そのものと言えます。

そして、子どもたちが主体的にこのような学習過程を歩み、創造の喜びを味わい、豊かな感性と情操をはぐくんでいく姿を確かめることのできることは教師の無上の喜びであると思います。

旭川市教育研究会図工美術部は、学校における教育活動の成果を旭川市小学校作品展、旭川市小中学生作品展、また作品集の発刊等を通し、子どもたちの豊かな感性と表現力、想像力に満ちあふれた作品を広く地域の人々にむけて発信しています。このような実践の積み重ねで培われた力が、本大会テーマ「豊

かに感じ おもいをふくらませ あらわす喜びを」に添った研究主題「生の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて」に込められた願いを具現化するために存分に発揮されますことを期待しています。

終わりに、本研究大会の企画運営に当たられました関係者の皆様のご尽力に敬意を表しますとともに、北海道造形教育連盟、旭川市教育研究会図工美術部の一層の発展を祈念しあげ、お祝いのあいさつといたします。



■大会日程

8:30	9:00	9:50	10:15	11:00	12:30	13:30	16:00	18:00
受付	公開1		開会式 全体会	講演	昼食	分科会 研究協議	移動	レセプション 閉会式
		公開2						
	9:15	10:05						

■開閉会式次第

【開会式】

司会 旭川大会副運営委員長 川合 薫

- | | | | |
|---|--------|-----------------------------|----------------|
| 1 | 開会の言葉 | 旭川大会実行委員長 | 森 清行 |
| 2 | 挨拶 | 北海道造形教育連盟委員長
旭川大会運営委員長 | 富田 泰
及川 輝夫 |
| 3 | 祝辞 | 北海道教育庁上川教育局長
旭川市教育委員会教育長 | 西田 俊夫
鳥本 弘昭 |
| 4 | 来賓紹介 | 旭川大会副運営委員長 | 引地 俊夫 |
| 5 | 研究概要説明 | 北海道造形教育連盟研究部長
旭川大会研究推進部長 | 川島 正夫
宮崎 智 |
| 6 | 閉会の言葉 | 旭川大会実行委員長 | 森 清行 |

【閉会式】

司会 旭川大会副運営委員長 加藤 隆

- | | | | |
|---|-----------|--------------|-------|
| 1 | 開会の言葉 | 旭川大会副運営委員長 | 渡辺 盛二 |
| 2 | 挨拶 | 北海道造形教育連盟委員長 | 富田 泰 |
| 3 | 連盟旗引継ぎ | 旭川 → 函館 | |
| 4 | 次期開催地代表挨拶 | 函館大会運営委員長 | 藤川 潔 |
| 5 | 閉会の言葉 | 旭川大会副運営委員長 | 渡辺 盛二 |

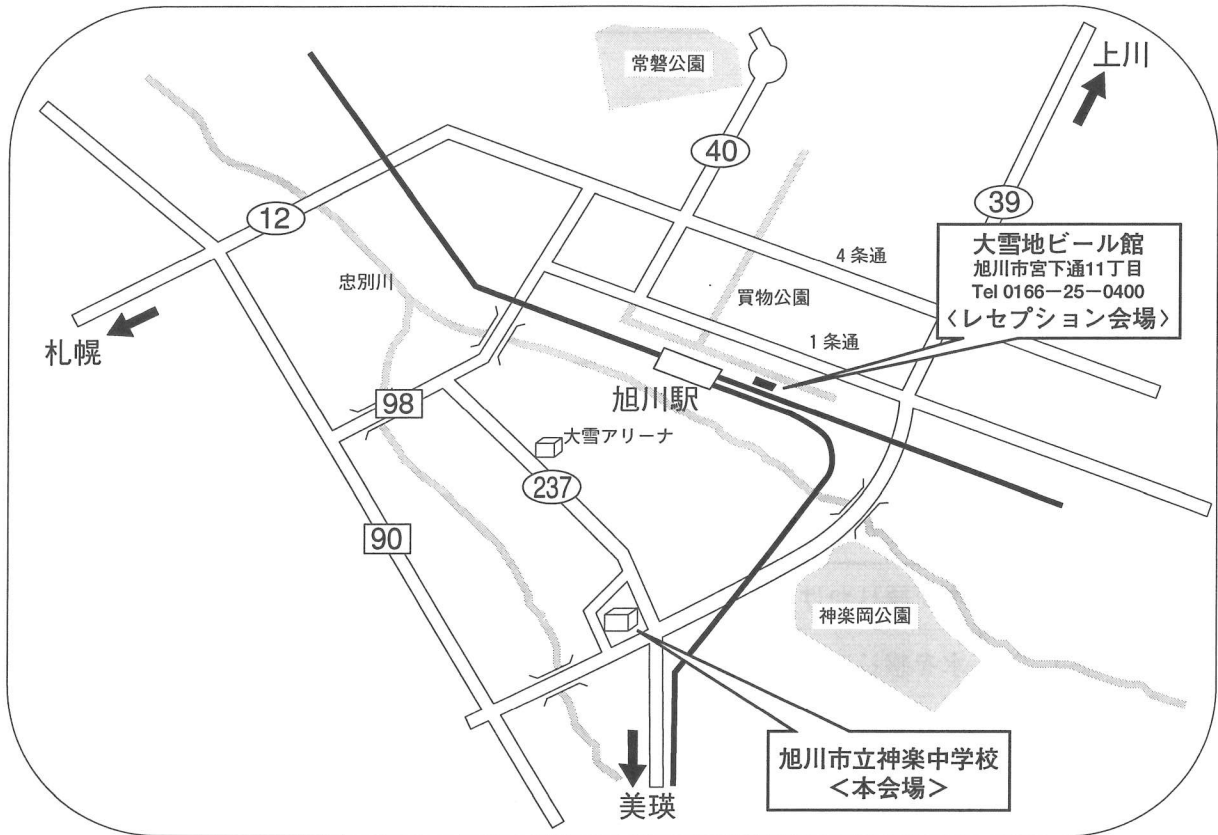
■公開授業

校種・学年	公開	題 材 名	授 業 者	分科会
幼稚園	年中 ①	1 わくわくタイム (表 現)	笠井 聡枝・土井 沙織 (旭川わかば幼稚園)	幼稚園
	年長 ②	1 どきどき・わいわい えのぐらんど (表 現)	秋山 香奈・畠山貴美子 (旭川わかば幼稚園)	
小学校	1年 ③	1 クモさんになって (造形遊び)	薄葉 郷子 (旭川市立末広小学校)	表現Ⅰ
	1・2年 ④	2 アレレ いしをつみあげていくと (造形遊び)	佐藤 仁彦 (上富良野町立江幌小学校)	
	5年 ⑤	1 ブラックライトの世界 (造形遊び)	澁谷 幹子 (旭川市立旭川小学校)	
	2年 ⑥	1 あそびにおいでよ わたしの島へ (つくりたい ものをつくる)	児玉恵美子 (旭川市立朝日小学校)	表現Ⅱ
	3年 ⑦	2 どこでもドアを 開いてみると・・・ (つくりたい ものをつくる)	大山みのり (旭川市立陵雲小学校)	
	6年 ⑧	2 あさひかわ彫刻散歩 (鑑 賞)	泉 大吾 (教育大附属旭川小学校)	
中学校	1年 ⑨	1 木が語りかけるもの (工 芸)	大坪 卓司 (旭川市立神楽中学校)	表 現
	2年 ⑩	2 水を感じて流れを ^み る (デザイン)	藤井真規子 (旭川市立緑が丘中学校)	
	2年 ⑪	1 変容する版の魅力 (コラグラフ) (絵 画)	渡邊 万紀 (旭川市立東明中学校)	
	2年 ⑫	2 共有するまなざし (鑑 賞)	庄子 展弘 (旭川市立春光台中学校)	鑑 賞

■分科会

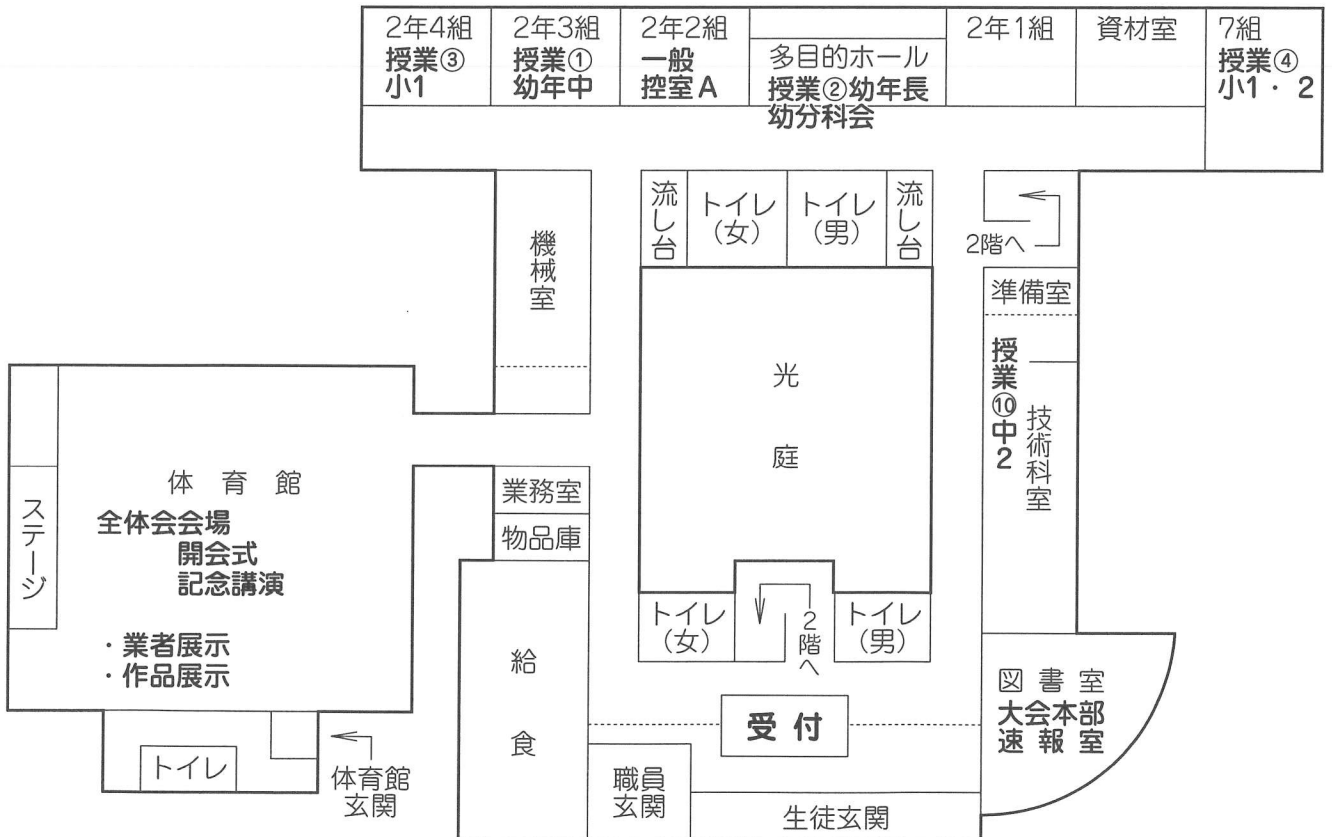
	分科会名	提 言 者	助 言 者	司 会 者	運 営・記 録 者
1	幼稚園	佐藤 公文 (旭川・わかば幼)	古屋 栄隆 (旭川・せつれい幼長)	目良佐都美 (旭川・めいほう幼)	澤田石浩美 (旭川・大谷さくら幼) 結柴左悦子 (旭川・大雪幼)
2	小学校 表現Ⅰ <造形遊び>	山口 貴大 (当麻・当麻小) 正部川恵智子 (旭川・高台小)	引地 俊夫 (東神楽・志比内小長) 渡辺 盛二 (旭川・正和小頭)	井山 和博 (当麻・当麻中) 宮崎真理子 (旭川・春光小)	澤田 克之 (富良野・富良野東中) 高橋香奈子 (旭川・末広北小)
3	小学校 表現Ⅱ <絵や立体・つくり たいもの・鑑賞>	幸田 尚子 (沼田・沼田小) 村住 久恵 (旭川北鎮小)	枝広 健二 (岩見沢・緑中長) 加藤 隆 (旭川・永山小頭)	中澤 孝仁 (滝川・東小) 横川香代子 (旭川・近文小)	熊本有未代 (赤平・赤平中) 豊巻 絹子 (旭川・東光小)
4	中学校 表現	向井 正樹 (札幌・あいの里東中) 西岡 裕英 (附属旭川中)	寺嶋 文憲 (札幌・東米里中長) 坂野 潤治 (旭川・北門中長)	石川 早苗 (札幌・宮の丘中) 中島 圭介 (旭川・東光中)	阿部 時彦 (札幌・八軒中) 畠山 勝 (旭川・神居東中)
5	中学校 鑑賞	佐々木善憲 (附属函館中) 成田 慎司 (旭川・緑が丘中)	中村 吉秀 (函館・北中頭) 川合 薫 (旭川・桜岡中頭)	赤坂 巖男 (鹿部・鹿部中) 平野 雅弘 (旭川・雨紛中)	佐々木壮一 (函館・的場中) 伊藤 賢二 (旭川・広陵中)
6	高 校	西田 武文 (旭川藤女子高) 佐藤 佳人 (旭川工業高) 齋藤 健昭 (旭川東高)	宮崎 和夫 (旭川東栄高)	山口 幸彦 (旭川南高) 水元 夕佳 (旭川北高)	工藤 亨 (旭川西高) 寺腰 精司 (旭川凌雲高)

■会場周辺地図

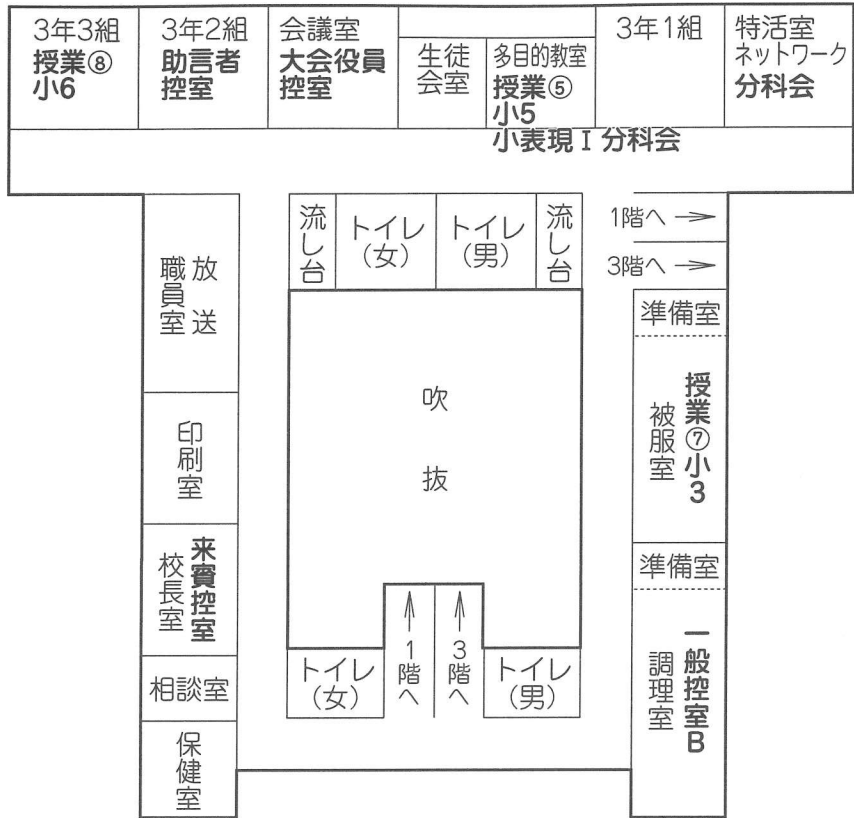


■会場図

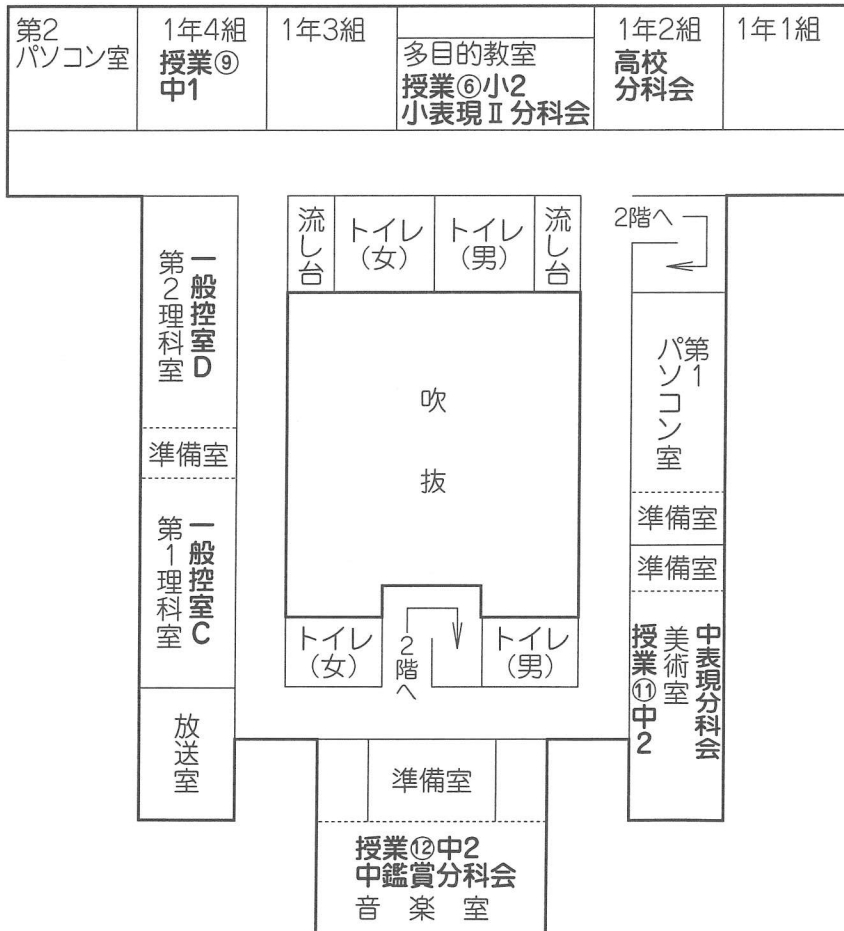
【 1 階 】



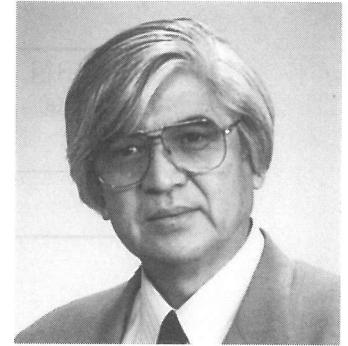
【 2 階 】



【 3 階 】



記念講演



演 題

＜いま，ここ＞に生きる根源的学びとしての
子どもの造形行為の可能性

西野 範 夫 氏

(にし のりお) Nishino Norio (1937年生)

【略 歴】

- 1960.3 多摩美術大学美術学部卒業
- 1960.9 東京都公立学校教諭
- 1978.4 皇学館大学文学部講師
- 1980.4 皇学館大学文学部助教授
- 1983.4 金沢大学教育学部助教授
- 1986.4 文部省初等中等教育局教科調査官
- 1993.4 文部省初等中等教育局視学官
- 1994.12 上越教育大学学校教育学部教授(芸術系美術講座)
- 1996.4 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科(博士課程) 併任
- 2000.4 上越教育大学学校教育学部教授(学習臨床講座)
- 2001.4 上越教育大学学校教育学部附属小学校校長併任
- 2003.3 上越教育大学学校教育学部定年退官
- 2003.4 上越教育大学学校教育学部(学習臨床講座) 非常勤講師 (現在に至る)

【専 門】 学習臨床学，美術教育学

【主な著書・論文】

- ①共著『小学校新しい学力観に立つ授業と評価の手引き』（明治図書，1991年）
- ②編著『小学校新教育課程 図画工作科の授業をどう創るか』（明治図書，1999年）
- ③編著『小学校学習指導要領の展開 図画工作編』（明治図書，1999年）
- ④論文・単著「造形的な遊びの意義Ⅰ」（大学美術教育学会誌，第17号，1985年）
- ⑤「造形的な遊びの意義Ⅱ」（大学美術教育学会誌，第18号，1986年）
- ⑥「子供のよさを生かす学習指導と評価」（初等教育資料，1991年）
- ⑦「子供たちのよさを生かす共感と支援の教育」（初等教育資料，1993年）
- ⑧「意味生成カウンセリングⅠ」（美育文化，VOL.49.NO.8，1999年）
- ⑨「意味生成カウンセリングⅡ」（美育文化，VOL.49.NO.11，1999年）
- ⑩「＜私＞と＜他者＞と子ども」（美育文化，VOL.49.NO.12，1999年）
- ⑪「他者性による表現行為の成り立ち」（美育文化，VOL.50.NO.2，2000年）
- ⑫「＜できごと一意味＞の生成の行為」（美育文化，VOL.50.NO.4，2000年）
- ⑬「＜できごと＞という意味生成と学び」（美育文化，VOL.50.NO.5，2000年）
- ⑭「「あいだ」がつくる子どもの学び」（美育文化，VOL.50.NO.6，2000年）
- ⑮「生きる過程としての子どもの学び」（美育文化，VOL.50.NO.7，2000年）
- ⑯「子どもの論理とつくること」（美と育，no.5，2000年）

西野 範夫
にし のりお

研究概要



研究概要

[北海道造形教育連盟研究主題]

『心豊かに未来に生きる造形教育』

旭川大会 2004.7.28

北海道造形教育連盟研究部長 川 島 正 夫

1. はじめに

昨年、基礎研究のひとつとして「北海道の子供の現状を捉えるためのアンケート」を実施した。回答数が必ずしも高いとはいえないものではあったが、いくつかのことがそこから見えてきた。バランスの取れた年間指導計画を行おうとしている教師が多い、のびやかさや発想のバラエティー化が見られる等、教師や子供のよさも浮き彫りになったが、我々の予想以上に造形活動嫌いの子供が増えている、学年が進むにつれて「思うようにできない」と感じている子供が増えている。「めんどろだ」「やる気がしない」と意欲や態度にかかわる否定的回答が目立つ等の子供の実態も見えてきた。また、教師の問題として、造形活動の人間形成における役割の軽視、造形遊びに対する関心の低さ等も見えてきた。まさに、学ぶ喜びや、学ぶ意味・価値が十分に伝えられていない子供の実態が見えてきたのである。

現代は、IT化や希薄な人間関係等、子供を取り巻く社会的状況に歪みが存在し、子供自身には粘り強さの弱化や経験不足等がみられ、造形活動における今日的課題という面から見ても、時数の削減や説明責任の重要性、「芸術の教育か、芸術による教育か」等の問題が存在している。造形教育を取り巻く現状は厳しいものと言わざるを得ない。さらに、保護者は公教育では造形教育に対し、さして期待をしていないという調査結果もあるようである。

今こそ、<今を生きる子供と造形活動のつながり>を深め、<子供の造形活動の本質>を探り、同時に<造形活動の広がり<と可能性やこれからのあり方>を探っていく取り組みが急務であるといえるのである。そして我々は、自分達だけで研究を深め、その成果に自己満足するのではなく、積極的に外に向かって造形教育の価値や意義を発信していく必要があると考える。

2. 心豊かに未来に生きる

造形教育は、「もの」と触れ合い「人と触れ合う」中で試行錯誤を重ねながら、「自分と向き合う」ことから、自分の未来を切り開いていくことのできる人間を育てていくものである。北海道造形教育連盟は、2000年から研究主題を「心豊かに未来に生きる造形教育」と設定し、研究を重ねてきた。我々は、函館大会、全国大会（札幌会場）、帯広・十勝大会、空知大会で考察してきた<人間づくり>という観点を土台としながらもさらに研究を深めていく必要があると考える。造形教育を通して、自らの生き方を問い続け、さらに自分自身の変容に喜びを感じながら<豊かな心>を育み、未来を切り開いていこうとする人間を育てていく必要があるのである。

3. つくる喜びを実感できる造形教育

現代は、百マス計算に代表される数値をもって測定することが可能な教科の基礎・基本の定着がもてはやされ、造形活動や国語の単元学習など、数値をもって測定することが難しいものに対してはその有用性すら否定されかねない状況がある。日本の教育界は「教えるプロ」を求め、「育てるプロ」は必要とされないと思える。

造形教育の中にあっても、「できないものをできるようにする」指導法が「表現の喜び」とする考え方もある。学級全員が一つの正解のような、教師の主観のみに合致した指導過多の美を目指すものもある。力の育成を目指すあまりに、大人の感性を押し付け、子供の主体性を奪う活動は、造形教育の目指すところではないことは明白のはずである。子どもが自分で描きたいと思う絵やつくりたいと思う作品をつくることのできる活動の中で、子供の資質や能力をはぐくむことこそ大切にされなくてはならないと考える。

我々は、〈わたし〉を中心に置きながら、真剣で真面目な日本人特有の〈誠実さ〉、一人一人固有の表現の中に表れる〈多様さ〉を土台とした造形観をもとに、どの子にも「こんなことが表せた!」「取り組んだ甲斐があったよ!」という思いを生むようなく学びの実感のある授業を検証していきたい。〈学びの実感〉があり、新しい自分をつくりだせたという自己創造感を生む授業実践の積み重ねが、造形の未来を拓き、保護者や社会の声に対する我々連盟の回答につながっていくのではないかと考えている。そのために、〈育てる力を意識した連盟独自の題材の開発〉、〈育てる力を意識した連盟独自の指導法〉を明らかにしていく必要性を強く感じている。

今回の旭川大会は、「概念や思い込み（それまでの自分）」に頼らず、「自分の身体を通して、対象・事象から学び、造形性の意味（価値）とかたちを発見的に創造していき、自分のものにする（新しい自分）」ことをねらう大会であると捉えている。豊かなかわりから新しい自分をつくりだす子供の姿がたくさん見られる大会となるであろう。そしてその姿は、造形の未来を拓く学習のあり方に対する一つの提案となるであろう。

【北海道造形教育研究主題】

『心豊かに未来に生きる造形教育』

北海道造形教育連盟 函館大会 2000. 7. 26~27

- ◆20世紀から21世紀へ心の風景（ビジョン）の発信を
- ◆豊かな自分づくりを生かす想創活動 ◎特色ある課題別分科会

全道連北海道大会（札幌会場） 2001. 9. 6~7

- ◆<いま><ここ><わたし>を基軸にして造形の未来を創る
- ◎感じて・つくって・ひらく授業の創造 造形ボックス 5つの扉—授業・分科会

北海道造形教育連盟 帯広・十勝大会 2002. 7. 27

- ◆広い大地に紡ぐ夢
- ◆<みる>ものからの感動 <つくる>出したものへの愛着 <いかす>を知り得たことへの喜び ◎<心の豊かさ>を育む

北海道造形教育連盟 空知大会 2003. 7. 29

- ◆<ふれあう>素材や人とのふれあいを通してつくる喜びを感じる
- ◆<さぐる>素材や表現方法を探ることを通して、つくる喜びを感じる
- ◆<つくりだす>造形活動を通して作品や人間関係をつくる喜びを感じる

北海道造形教育連盟 旭川大会 2004. 7. 28

- ◆「生の造形教育～身体で感じ 感性を磨くための出会いを求めて～」
- 自分の身体を通して、対象・事象から学び、造形性の意味（価値）とかたちを発見的に創造していく ◎<出会い>を重視することによる身体性の復権と創造

2005年

函館大会へ

【旭川大会テーマ】
「豊かに感じ おもいさへからませ あらわす喜びを」

研究概要

[生の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて～]

『豊かに感じ おもいをふくらませ あらわす喜びを』

旭川大会研究推進部長 宮 崙 智

1 はじめに 造形教育における「生きる力」とは、「今、ここで」対象・事象から直に受け取り、どのように表現すべきかを自発的に感じ、考え、行為する力です。これからの造形教育は、子ども一人一人が“感じる”を十分に発揮し、他者と“響き合い”“学び合う”なかで、かけがえのない自分の個性を発見する、互いに「生かし生かされる学び」が極めて重要になってきます。

本研究では、“感じる（受け取る）”力の育成に焦点を当てて取りくんできました。なぜなら、“感じる（受け取る）”力の育成は、子どもが対象からの“感じる”を発揮し、自分にとっての意味（価値）を創造的に発見し、周囲の環境（人・もの・こと）と対話しながら、「今、ここで」どのように表現すべきかを主体的に考えたり、表現したり、互いに高め合ったりする力などの「生きる力」の基となる能力だからです。

2 大会テーマ

豊かに感じ おもいをふくらませ あらわす喜びを

豊かに感じ

大会テーマ「豊かに感じ おもいをふくらませ あらわす喜びを」には、「子どもたち一人一人が、ふくよかに心啓き、豊かに感じる力を付け、自分自身の思いから表現を試行錯誤して生み出し、そこでの気分やプロセスで、表現を生き生きと生む“表現する心”を獲得できるように」という願いが込められています。

造形行為の始まりは、【豊かに感じ】、考える心をもつ子ども自身の身体です。子どもが「五感」を通して、身体で受動的に受け取った驚きや感動の“感じる”は、身体の内にも染み入り、心の深層で響き合います。心と一体になった「五感」は私の感じであり、感じるのは私です。

造形教育における重要な学びは、従来の指導観や大人の価値観による子どもの外からの学びだけではなく、子どもの内からわき出る学びです。つまり、子ども自らの身体で、本人の実感として、生き生きと感じられるようにすることです。なぜなら、“感じる”本体は、かけがえのない自分自身だからです。

子どもは、対象・事象との出会いによって、ある種の感覚・気分・雰囲気を受け取ります。その出会いに強烈なインタラクション（相互作用）があればあるほど、“すり込み”にも似た衝撃的な雰囲気に包み込まれます。「五感」を通して、

興味
中心

体験
を
通
じ
て

身体で受け取った衝撃的な感覚が、じんわりと、また稲妻に打たれたように激しく全身を駆けめぐらるからです。この衝動が、心に刺さり込み、やがて子どもは、新しい何かが自分の内から生まれてくるのを感じます。これが自分にとっての意味（価値）です。こうして、出合いの雰囲気から意味（価値）が生まれ、意味（価値）生成のための表現が展開していくのです。

ですから、「豊かに感じ」させるためには、教師は対象との『生な出合い』を演出する必要があるのです。

「生」とは～ありのまま 実際に受け入れたとおり 素直に

この『生な出合い』の衝撃が、子ども自身の感性の母体である“感じる身体”を開花させます。子ども自身の身体で生に“感じる”こそが、今をたくましく「生きる力」の基礎となるのです。

おもしろい
似て

おもいを
ふくらませ

導入における対象との出合いを通して、子どもたちは自分なりに反応し、感じ、そしてじっくり対象に浸り、味わい、自分なりの意味（価値）を発見し、創造活動を進めていきます。それは、受動的な『生な出合い』が、やがて、子どもの内に「こうしてみようかな」という意志やおもいを湧出させ、自ずと能動的な『生な体験』『生な思考』に発展していくからです。

『生な体験』とは、子ども自らが、見たり触ったりして、対象の感触や手応えを“生”に感じ取り、想像力を働かせ、考え、比べ、自分なりの意味（価値）とかたちの変容を楽しみ、意味（価値）生成の行為を試行していく体験です。

【おもいをふくらませ】とは、対象を操作していくなかで、子どもが造形感覚や想像力、技能などを生き生きと『生の思考』の中で発揮し、感じ、考え、操作して、自分に合った表し方を見つけ出そうと試行錯誤する状態を指します。ここでは、子どもと対象・子ども同士・子どもと教師間の『対話』を重視します。なぜなら、表現・鑑賞プロセスで、他者（人・もの・こと）との『対話』を通して“感じる”を交流し、互いのよさや違いに気づくからです。こうして、子どもたちは、自分のかけがえのない個性や唯一性を自覚し、他者に近づくことのうれしさを肌で感じ、自己実現の喜びや相手の立場に立てる感性、思いやりの心などを育んでいきます。

ここで教師は、子どものリズムを生かした思索のできる時間・空間を準備していきます。じっくりと子どもと『対話』し、子どもの表現に対する思いに寄り添いながら、自分なりに「おもしろい」「いいぞ」「きれいだ」といった自分にとっての価値ある意味を創造していこうとする子ども自身の学びを支えることが支援となります。

あらわす
喜びを

【あらわす喜びを】味わうことは、自己実現の喜びを味わうことです。あらわす喜びとは、水が泉からこんこんとわき出るように、新たな願いやおもいが、身体の外に溢れ出てくる状態を指します。

そのためには、豊かに“感じる”を重視した『創造表現の能力を育む手だて』

が必要です。

子ども一人一人の心の中では、感じることと同時に、色やかたちの認識が進み、造形の心や美しさ、よさの発見、気づきにつながっていきます。ですから、自分らしい表し方を試しながら、表現に適切な方法を選択・発見し、自分の思いをかたちや色などにあらわすには、造形性のよさや美しさを自覚的に構想していく力が欠かせません。

ここで、私たちは、子どもに造形感覚や想像力、技能などを十分に発揮させるとともに、子ども自身が本来もっている創造表現の能力を伸長させていかなければなりません。そのためにも、自分のよさを生かし、思いのままにかいたりつくったりできるようにすることが大切になってきます。

教師の考えた手の内の指導を離れ、子どもの学びから、子どもとともに作り出していきます。教師にとっては、子どもと共感し、身をゆだねて、『対話の中から表現の本質を伝える』ことであり、子ども自身にとっては、自分の個性の発見と同様に、地域や国の文化の個性を学ぶことが、表現の多様な美的価値を知る上で大切な学びです。互いの個性の差異に気づき、生かし合う中で、子どもたちは異質な世界で“響き合う”豊かな心や国際協調の精神を育みます。

3 研究主題

生の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて～

「今、ここで」生まれる『生』性をモットーに、子どもたちを概念化・システム化された表現から解放し、「事象に触れ、自分で素直に感じることができ、自分で意味（価値）を生み、自分で自分の表現を切り拓いていける子ども」の育成を目指します。

生の造形教育

「生の造形教育」とは、出会いからプロセス、表現行為の終了までの全体を通して、身体で感じ、行為し、絶えず『生な出会い』の感触を生かしつつ、「今、ここで」生まれるというリアリティーをもって、造形表現を湧出させる教育です。

「生の造形教育」では、対象・事象からの“感じる”を重視します。なぜなら、“感じる”は“受け取る”学びであり、自分を取り巻く環境に対する柔軟な受動こそが子ども自身の能動を豊かにはぐくむと考えるからです。

「生の造形教育」のねらいは、概念や思いこみにとらわれず、自分の身体を通して、対象・事象から学び、造形性の意味（価値）とかたちを発見的に創造していく、自分のものにすることです。

造形・美術することは、単なる作業ではありません。『概念の授業から“感じる”授業へ』これが「生の造形教育」のテーマです。

身体で感じ

子どもは、まず素材との出会いから受け取る衝動的な雰囲気【身体で感じ】ます。対象に関わるなかで、自分にとっての意味（価値）を発見していきます。したがって、そのプロセスでは「五感」をはじめとする諸感覚を磨き、子どもの

身体

心

他

思
い
磨
い

感性を磨くた
めの出会いを
求めて

見
取
り

かけがいの
ない自己表現
親

心を解放する配慮が必要です。

これからの学びで大切なのは、ふくよかな個を生かし、他者と共感し響きあえる表現を求めた学びです。つまり、子どもが自分の身体で「今、ここで」この瞬間を、生に“感じる”からの造形教育です。

感性とは、一つには印象を受け取る能力、感受性のことをさします。さらに、“感じる”ことによって心に生じる感情や衝動または欲望といったものです。

しかし、造形活動における「豊かな感性」という表現には、創造性や感じたこと、思ったことを自分なりに表現するといった意味まで含まれます。

造形教育は感性を育てる教科として、生活する世界・環境や生き方から切り離して考えられません。つまり、感性とは、環境という周囲の事象に受動的・能動的にかかわりながら生きる子どもが、自分のもてる力で、また友達と関わる中で、『自己のあり方を探求・創造していく「価値判断の能力」』なのです。

子どもは、様々な対象・事象との「出会い」を通して成長していきます。単なる偶然行き会う以上の、互いの“響き合い”が重視されます。ある対象・事象に心奪われるような“響き合い”が大切になります。この初めて“感じる”新鮮で感動的な驚きの感じが、子どもに何かを芽生えさせ、何かを見つけ、考え、おもいめぐらせ、さらなる夢と創造をかき立てていくのです。

4 研究仮説

造形活動の出会いとプロセスにおいて、自分の身体で『感じる』ことと、他者との『対話』を重視することによって、子ども自身の感じる力が磨かれ、私（子ども自身）と他者の相互が生かし生かされ、自己実現の喜びを味わい、相手の立場にたてる感性を育む力を付けることができる。

5 研究の視点

これまでの実践の成果を基盤に、子ども一人一人が身体で『感じる』こと・他者との『対話』を重視するために、以下のような視点に立ち、各領域で研究を推進していきます。

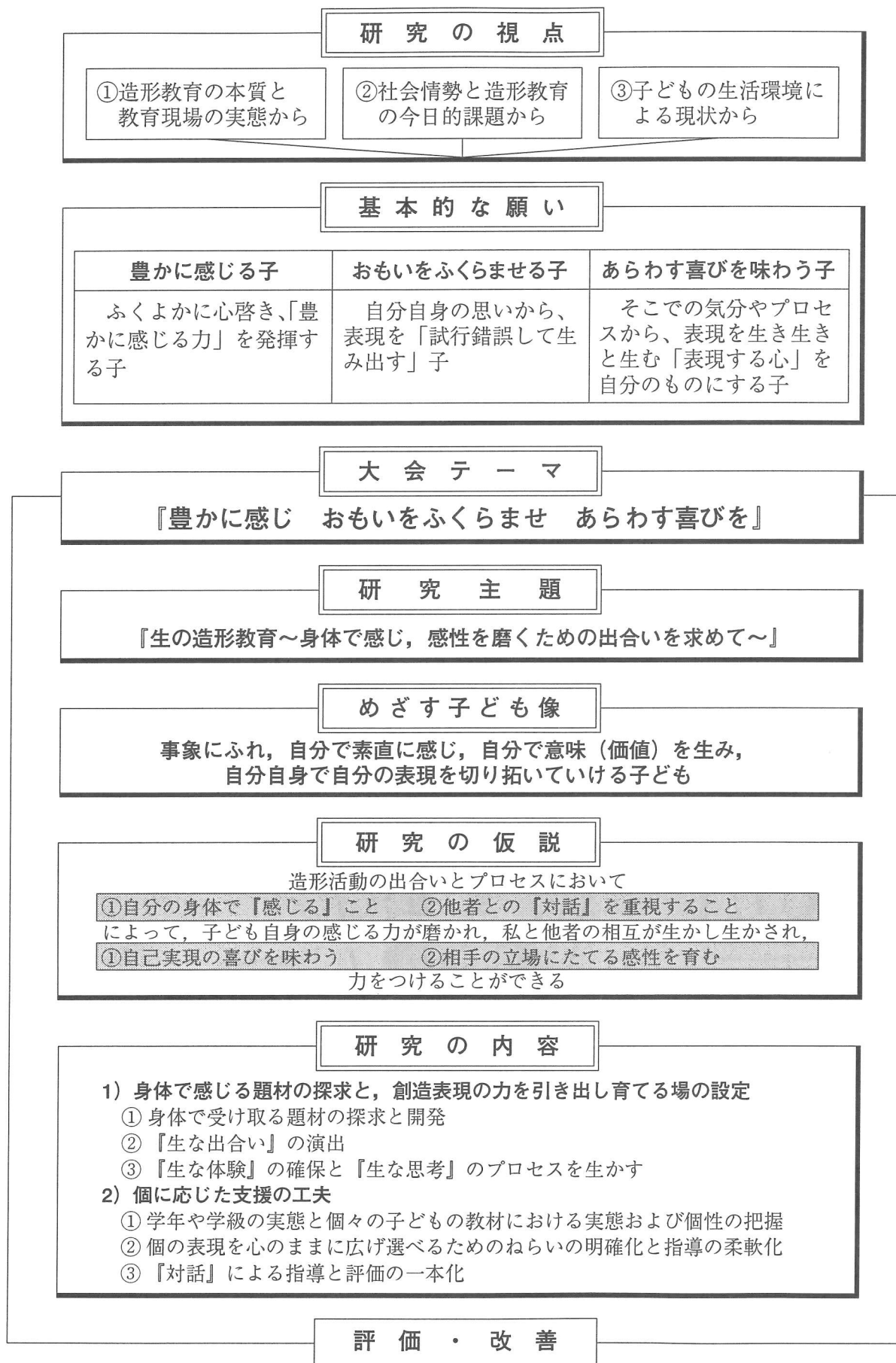
1) 身体で感じる題材の探求と、創造表現の力を引き出し育てる場の設定

- ① 身体で受け取る題材の探求と開発
- ② 『生な出会い』の演出
- ③ 『生な体験』の確保と『生の思考』のプロセスの重視

2) 個に応じた支援の工夫

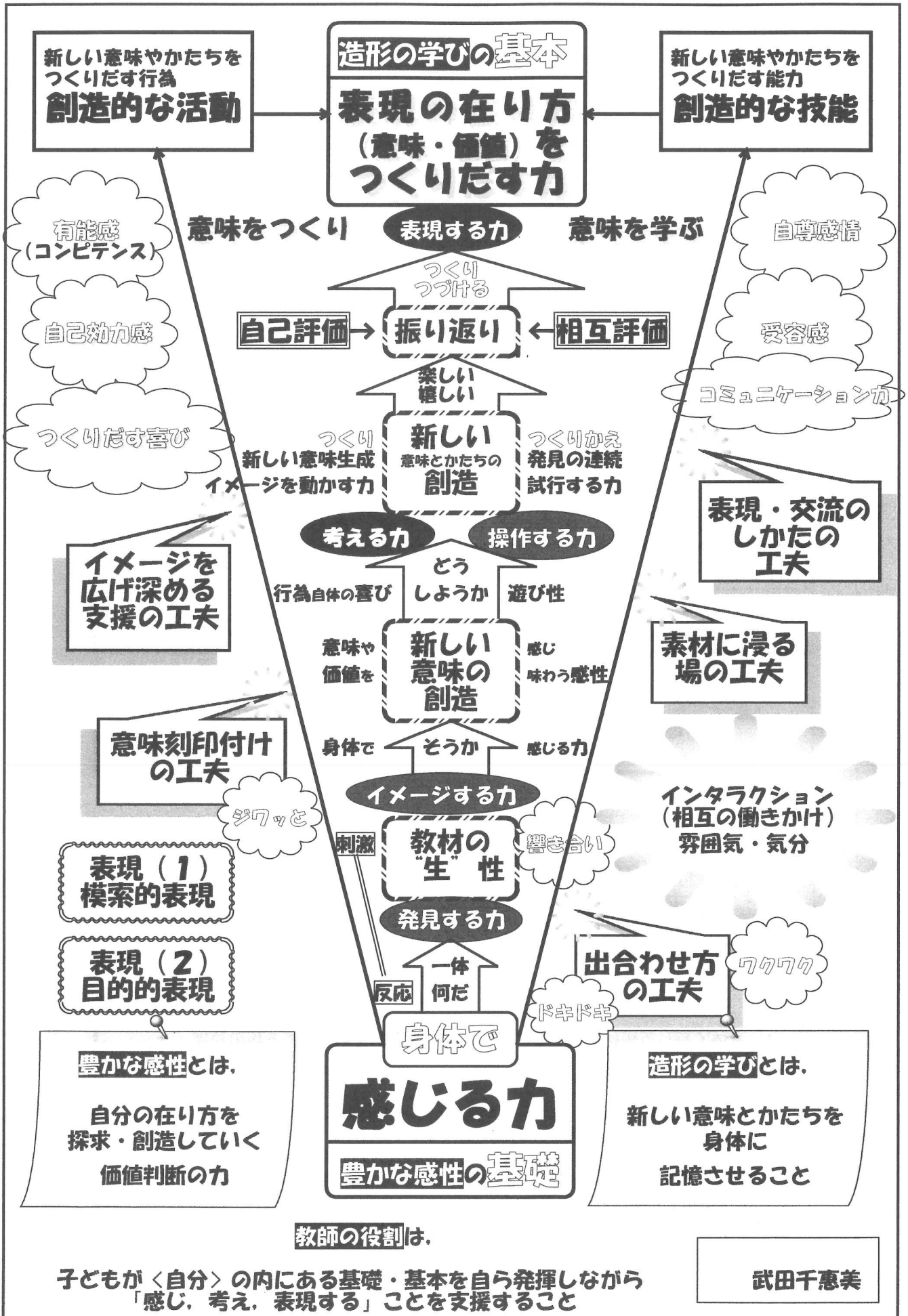
- ① 学年や学級の実態と、個々の子どもの教科における実態および個性の把握
- ② 個の表現を心のままに広げ選べるための、ねらいの明確化と指導の柔軟化
- ③ 『対話』による指導と評価の一体化

6 研究の全体構造

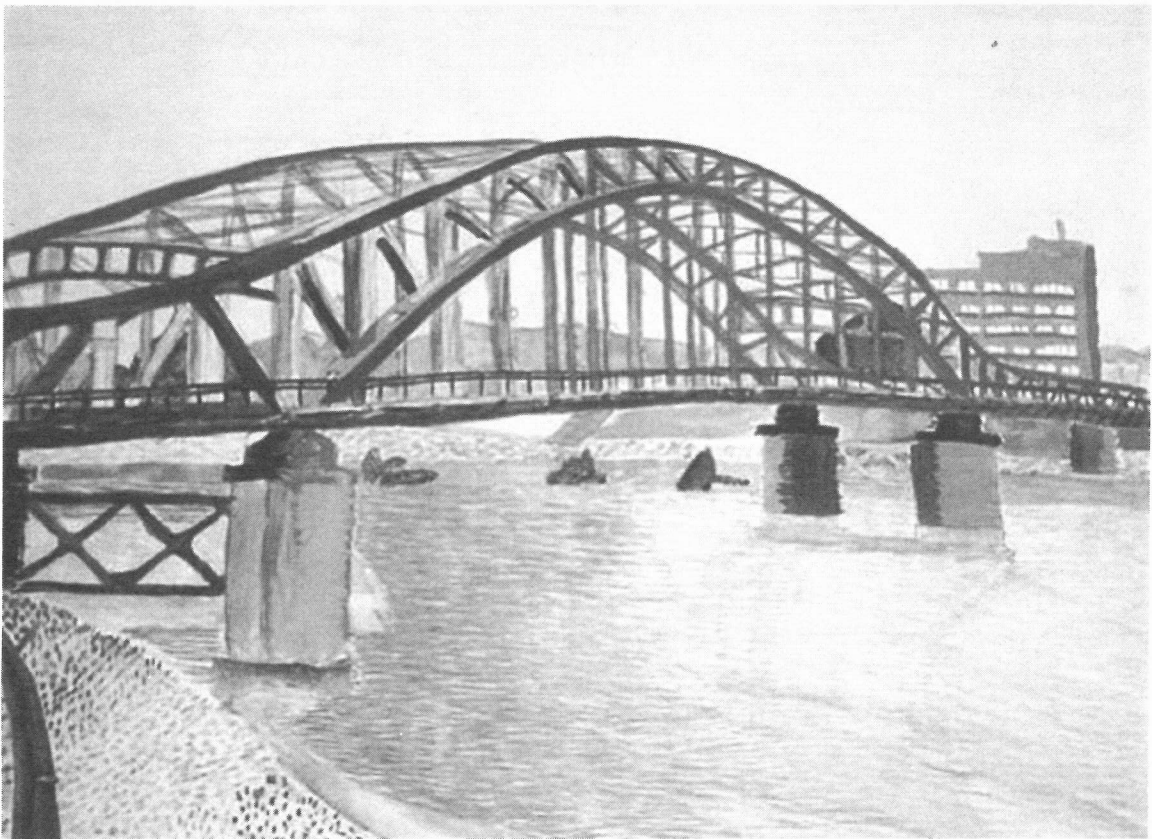


「生の造形教育」がめざすもの

～感じる力を付けること・感じる力を生き生きと働かせ、自らの表現の在り方をつくりだすこと～



公開授業



主 題 「えらんであそぶ」

題材名 「わくわくタイム」



旭川緑が丘学園
わかば幼稚園
指導者
笠井 聡枝
土井 沙織

1 題材設定の理由

わくわくタイムは、わかば幼稚園生活の中で園児が時と場に合ったルール、集団生活のルールを守る中で、自分の好きな遊びをすることが保障された時間である。

お遊戯室では、大きな積み木での家作り、鬼ごっこなどの集団遊び、友達とのすもう遊び、滑り台やターザンロープ等の室内遊具で、体をたっぷり使っている。

保育室では、毎日遊ぶ事のできるままごと・積み木・ゲーム・製作の遊びのコーナーの中で自分の考えで遊びを展開する。また、季節や子どもの興味・関心に合わせた特別コーナーを作り新しい遊びをすることも多い。

グラウンドでは体をたっぷり使って遊び、

砂場では砂と水の感触を楽しみ、時には草木等の自然物を利用して遊ぶ。

わくわくタイムでは、園児一人一人、あるいはクラス集団の成長がよくわかる。ひとつの遊びに複数の園児が加わる事で、大きな遊びへ展開する。友達の遊びに刺激を受け、今までと違った遊びに挑戦する姿も見られる。教師としても、一人一人の成長に合った指導がじっくりできる時間でもある。

年中組は「自分の好きな遊びを見つけ、たっぷり楽しみ、じっくり取り組む」を目標に、友達関係の深まりや、遊びの中の新しい発見や驚き、新しい素材との出会いを大切にし、子ども達の良い所をさらに伸ばしていけるように考えている。

本日は、2クラス合同で、園児が協力し合って遊んだり、友達と遊ぶことが楽しいと感じたりしながら遊んでほしいと考える。

2 造形遊びの押さえ

- (1) 造形用具の扱い方
- (2) 素材・材料との出会い
- (3) 遊び方

3 本時のねらい

- (1) 好きな遊びにじっくり取り組む。
- (2) 友達と考えを出し合いながら遊ぶ。

4 保育環境設定

- (1) 保育室と同じに、ままごと、積み木、ゲーム、製作のコーナー
- (2) 季節の遊びや新しい遊びのコーナー

活 動 の 流 れ	指 導 上 の 留 意 点
8 : 40 登園 おはようございます	○一人一人と挨拶を交わし状態を視診する。
9 : 00 わくわくタイム <予想される活動> ・積み木 ・パズル ・ままごと ・ゲーム ・ごっこあそび ・製作 ・折り紙 など	○スムーズに遊びに入っていけるように落ち着いた雰囲気づくりに配慮し、遊びに合わせて環境を整える。 ○遊びに合わせて言葉をかけたり、加わるなどして、より楽しめるよう配慮する。
9 : 50 片づけ さようなら	○全体を把握しながら、安全面に留意しゆったりと過ごせるように配慮する。
10 : 00 降園	○遊びが一段落できるところから声をかけ、協力して片づけられるよう配慮する。

主 題 「えのぐあそび」

題材名 「どきどき・わいわい
えのぐらんど」



旭川緑が丘学園
わかば幼稚園
指導者
秋山 香奈
畠山貴美子

1 設定の理由

子どもにとってえのぐは「どろどろした見た目と感触」「鮮やかな色」「混ぜると色が変わる不思議さとおもしろさ」をもった、子どもの興味をそそり、遊びの意欲を引き出す素材である。

これまで、年長組の園児は、入園から今までに、スタンプあそび・色水あそび・色つきスライム・染め紙・ぬりえ・マーブリング・はじきえのえのぐ遊びを楽しんできた。

幼稚園の造形遊びの大切なことに、素材や材料に対する興味、遊びそのものがおもしろいということがある。えのぐを使った造形遊びはその両方の要素が含まれると考える。

年長組になり、これまでの経験を生かしながら、ダイナミックに体の様々な部位を利用し、えのぐあそびを楽しんでほしいと考えている。

「えのぐらんど」の中で新しい発見をし、年長ならではの工夫をし、友達と楽しい経験の共有をしてほしいと考える。

2 指導の計画

- (1) 色を混ぜる遊び
- (2) えのぐを手で触る遊び
- (3) 色を紙や布に付ける遊び
- (4) 色を筆で塗る遊び
- (5) 絵を描く遊び

3 指導のねらい

- (1) ダイナミックに「えのぐらんど」で遊ぶ。
- (2) 「えのぐらんど」で、えのぐの新しいおもしろさ、新しい遊び方を発見し、友達と感動を共有する。

4 環境設定

- (1) 壁に模造紙（飛ばす・手形など）
- (2) 床に模造紙（寝ころぶ・足形・垂らす・絵の具の坂など）
- (3) その他の絵の具遊び

活 動 の 流 れ	指 導 上 の 留 意 点
<p>8：40 おはよう</p> <p>9：00 先生の話聞く</p> <p>「えのぐらんど」であそぶ ・指でポタポタ ・坂からたらす ・飛ばす ・手足スタンプ ・寝ころんで体でかく など</p> <p>9：40 感想を話す</p> <p>9：45 体を拭いて着替える</p> <p>10：00 降園</p>	<p>○えのぐあそびに興味・期待が持てるよう、注意事項・遊び方をわかりやすく話す。</p> <p>○子どもの遊びの様子に合わせて、遊びが広がるように援助する。</p> <p>○子どもの気持ちを受け止め、本時の活動に満足感が得られるようにする</p>

学習の主題 触覚と空間の対話

『生な体験』

題材名 「クモさんになって」



旭川市立末広小学校
指導者 薄葉 郷子

1 学習活動の意図と可能性

学習環境を様々な色の紙テープや新聞紙で作ったテープ、トイレットペーパーなどを広い空間で使えるように用意する。その空間の中で紙のテープをのばし、張りめぐらせたり、体に巻き付けたりしながら全身を使って行為を楽しむ『生な体験』を重視する。

子どもたちは、図工の時間に上手に作ろうとしたり、失敗を恐れたりする傾向にあるが、この題材では、体の様々な感覚で感じることを大切に、材料や友だちと対話しながら生き生きと活動を楽しむことができるように導きたい。また、今回の学習で友だちと助け合ったり、協力し合ったり、仲間同士のかかわりを大切に、一緒に学習することの楽しさにも気付かせたい。

2 指導目標

- (1) 空間に挑む行為に熱中することにより「大きさ」や「広がり」「量」を体感する。
- (2) 材料の可能性を全身で感じながら、材料の特性を体験的に学ぶことができる。
- (3) お互いの工夫や発想の良さやちがいに気づく。

3 指導の計画（全2時間）

- (1) 材料を感じる（1時間）
 - ・材料と出会い、イメージを膨らませる。
 - ・紙のテープの質感を身体で感じる。
- (2) 全身を使って遊ぶ（1時間 本時）
 - ・のばしたり、張りめぐらせたり全身で遊ぶ。
 - ・色や形、空間などの変化をたくさん感じながら友だちと楽しむ。

4 本時の目標

- (1) クモになったつもりで、主体的にテープを張り、空間づくりに挑んでいくことができる。
- (2) 場所や材料を生かし空間を仕切っていくことにより、空間の広がりや狭まりなどを体で受けとめることができる。

児童（生徒）の活動の流れ	指導上の留意点（支援や評価等）
<p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">クモさんになってかみのテープであそぼう</div> <p>○大きな空間や狭い空間に挑む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のばしたり、張りめぐらせたり、くっつけたりする行為を楽しむ。 ・友だちの楽しみ方に関心もち、手を貸したり、助け合ったりして活動を楽しむ。 <p>○偶然にできた形や色の重なり、変化した空間などに気付き楽しむ。</p>	<p>○めあてを確認し、子どもたちのモチベーションを高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に誘う空間・雰囲気演出する。 <p>○活動の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使える道具や材料を知らせる。 <p>○空間を身体で感じて挑んでいけるように支援する。</p> <p>○子どもたちと共に楽しみながら、子どもたちの楽しんでいる様子やつぶやきを見逃さないようにする。</p>

学習の主題 材料を身体感覚で味わう
『生な体験』

題材名 「アレレ いしを
つみあげていくと」



上富良野町立江幌小学校
指導者 佐藤 仁彦

1 学習活動の意図と可能性

この題材の出合いは、河原や山など自然の学習環境の中から始まる。子どもたちは歓声を上げながら散らばっていく。自分でこれほと思うような石を探し始めると、すぐに「きれいな石を見つけたと」「重くてもてないよ」こんな声が響き渡る。そして、抱きつけるくらいに大きな石にねころんだり、ひんやりと冷たい石にほっぺたをくっつけたり、石を投げたり積み上げたり、キラキラいろんな石を放つ石をながめたりする。このような活動を通して、子どもたちは、石そのものの素材を五感で受け止め、感覚を体に蓄積していく。

子どもたちが集めた大きささまざまな色やかたちの石が教室でじっと待っている。いよいよ石を積み上げる。子どもたちは、石の色やかたちを見て組み合わせを考えるだけでなく、川原や山で蓄えた感覚を生活体験と結び付けながら石を積み上げていく。

こうして子どもたちは、手や足、体全体を使って五感を働かせ、石と直接的なふれあい（行為）を楽しみながら、自分で感じ取り見つけたり判断したりする力を蓄積す

る。このように、子ども一人一人が素材とかかわりながら蓄えた力をもとに、造形活動に浸ることをこの題材のねらいとしている。

2 指導目標

- (1) 石のかたちや大きさ・色・材料に関心を持ち、手や体全体の感覚を働かせながら、石を積み上げる活動を楽しもうとする。
- (2) 石を組み合わせる、積み上げるといった試行錯誤の行為の中、素材への体験を学び、活動に浸ることができる。

3 指導の計画

石との出合い

日常生活での石との遊び経験や生活科などでの活動で培われる自然物とのかかわりなど、これまでの素材体験すべてがこの学習活動の基盤につながる。



- (1) 石と遊び、探す（2時間）
 - ・河原や山などで石を十分に体験できる学習環境を選び、素材そのものを一人一人感じることから始め、いろいろな種類の石を収集する。
- (2) 石を積み上げる（1時間本時）
 - ・石を積み上げていく。
 - ・感じたことをもとに自分の表現を作りだしていく。
 - ・作品を見わたす。

4 本時の目標

- (1) 石のかたち・大きさ・質感・色を身体で感じ、石を積み上げる活動を楽しみながら積むという行為からの学びを行う。

児童（生徒）の活動の流れ	指導上の留意点（支援や評価等）
<ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動をつかむ 「石を積み上げよう」 ○石を積み上げていく。 ○できあったものを見合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の活動体験をもとにした「対話」を大切にして、石を積み上げるイメージを喚起させる。 ○子どもの活動を見取り、適切な支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・感じとる→重さ、色、ぬくもり ・行為→石の大きさ、形などの声かけ

学習の主題 光をあてたらー
『生な出会い』
題材名 「ブラックライトの
世界」



旭川市立旭川小学校
指導者 澁谷 幹子

1 学習活動の意図と可能性

ライトアップされた建物や樹木、クリスマスのイルミネーションなど、最近では光によって演出された空間を味わう機会が増えてきている。暗闇の中で、光や灯りは、より美しく見え、現実とは違ったファンタジーな世界を感じることができる。

この時期の子どもは、初めて経験する材料やそれを生かした個性的なあらわしかたに関心をもつとともに、他者が楽しめる形を意識して制作するようになる。あらかず場を暗くし、ブラックライトで照らすことで、いつもとは違ったイメージをもったり、操作、行為をしたりすることが期待できる。光る素材をたくさん用意し、それらを切ったり貼ったり、何度も暗い場所で試したりすることで子どもが、自分らしく行為していくことを楽しむようにしたい。

2 指導目標

- (1) 空間に挑む行為に熱中し『おおきさ』や『広がり』『量』などを体感し、暗闇の中で光ることによって生み出される新しい世界を味わうことができる。
- (2) 素材を光らせ、光の組み合わせ方や暗い場所を生かした表現を工夫する。
- (3) 光によって演出された空間をみんなで楽しみ、互いの工夫や発想の良さを語り合うことができる

3 指導の計画（全2時間）

- (1) 素材と出会う（1時間）
 - ・素材との出会い。
 - ・光る素材、知る。
 - ・どんな物を作るか考える。
- (2) 素材に浸る（1時間 本時）
 - ・いろいろな素材に蛍光絵の具で塗ったり、描いたりする。
 - ・いろいろな素材を貼ったり、つるしたり、置いたり、並べたりする。
 - ・暗いところで試す。

4 本時の目標

- (1) ブラックライトによって光る素材や現れる形・色・空間を楽しむ。
- (2) 光り方を意識しながら、素材の可能性を追求することができる。

児童（生徒）の活動の流れ	指導上の留意点（支援や評価等）
<p>○本時のめあてについて確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ブラックライトの世界をつくろう</div> <p>○どんな遊びをするか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁に模様を描きたい。 ・天井に光るものをつけたい。 <p>○各自のい遊びにとりかかる。</p> <p>○ブラックライトの光をあてて試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のよいところを見つける。 <p>○再び遊びにとりかかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらにイメージを広げていく。 <p>○再びブラックライトの光をあてる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">美しい世界ができた</div>	<p>○めあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天井、壁、空中などの空間に挑んでいく場を設置しておく。 <p>○活動の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挑む場所、素材や道具について知らせる。 ・部屋を明るくしたままで活動する。 <p>○子どもが集中したり交流したりするプロセスを大切にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試す（遊ぶ）場面が多くなるように声をかける。 ・楽しんでいる様子をとらえ、その他の子どもたち伝える。 <p>○活動の場所を暗くして、自分たちの活動の成果を見る。</p>

学習の主題 制作と対話の生性

題材名 「あそびにおいでよ
わたしの島へ」



旭川市立朝日小学校
指導者 児玉恵美子

1 学習活動の意図と可能性

「ぼくだけのえがお・わたしだけのえがお」など、個を発揮できる場を大切にした学級経営を進める中で、自分だけの作品づくりを楽しむことができるようになってきた。

本題材では、「島」という他と隔絶されたテーマを設定することにより、「自分だけの場所」をつくり出すことに期待をもたせたい。また、これまでの図工の経験では、比較的小さな作品づくりが多かったが、島との出合いの場で思いきり体を動かして楽しさを味わう体験をすることから「こんな島があったらいいな」という自分の島に対するイメージを具体的にもち、「自分の島」に対する思いを膨らませることができるのではないかと考える。

学習のプロセスでは、自分の願いを明確にもち、新しい材料で制作しつつも友達の島での工夫などに触れることを通して、「もっと工夫していこう」とする発見や意欲を

高めていきたい。

さらに、願いに向かって、実際に遊んだり、試したり、工夫したりしながら制作を進めることにより、自分の思いが実現していく楽しみと他者の制作プロセスを味わいながら活動していけるように進めていきたい。

2 指導目標

- (1) 自分のイメージに合わせて、身のまわりの材料を選んで、試したり直したりするプロセスを楽しみながら自分なりの方法で自分の島をつくることができる。

3 指導の計画<全7時間>

- (1) 島の楽しさを体験し、イメージをもつ <1時間>
 - ・自分の島への願いをもつ。
- (2) 自分の島の形をつくる。 <2時間>
 - ・自分の願いを確かめながら島の大きさを決め、周りをつくる。
- (3) 島をつくる <4時間 本時2/4>
 - ・材料を選び、試したり直したりしながら、島にあったらいいものをつくる。友達の制作のプロセスが気に入った所を発見したり、自分の作品に取り入れたりする。
 - ・自分や友達の島のよさを味わう。

4 本時の目標

- (1) 自分のつくりたいものに合った材料を選んで、試しながら島にあったらいいものをつくることができる。
- (2) 他者の制作の様子や内容を見たり対話したりしてよいところに気づいたり取り入れたりする。

児童（生徒）の活動の流れ	指導上の留意点（支援や評価等）
<p>本時のめあてについて確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">材料やつくり方を考えて島をつくろう</div> <p>○「自分の島」への願いを発表する</p> <p>○試したり直したり、工夫したりを繰り返しながら「島」をつくる。</p> <p>○自分の工夫で困っているところや、友達の工夫のよいところを発表する。</p>	<p>○表し方の工夫を具体的に交流し合い、意欲的に制作活動に取り組めるように、演出する。</p> <p>○制作のプロセスを味わいながら活動する。</p> <p>○接着方法や道具の扱い方など注意事項の確認</p> <p>○子どもの願いに沿った支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島での自分を想起させ、どんなものがあったらいいのかなど、対話の中で確認し、イメージを膨らませる。 <p>○いろいろな材料から選んだり、試したりしながら取り組んでいるか。</p> <p>○楽しみながら活動できた子や、表し方を工夫していた子の姿を紹介する。</p>

学習の主題

想像の世界をふくらませ、自分の世界を広げる～『生な試行錯誤』

題材名 「どこでもドアを開いてみると…」



旭川市立陵雲小学校
指導者 大山みのり

1 学習活動の意図と可能性

「どこでもドア」とは、開くだけで、自分の行きたい場所に行くことのできる不思議な道具である。もし、この不思議なドアを開くとしたら、子どもたちの目の前には一体どんな風景が広がるだろうか。地球のさまざまな場所、宇宙空間、そしてあったらいいいつも想像している架空の世界。中には具体的な景色ではなく、漠然としたイメージの想像のみにとどまる子もいるであろう。「どこでもドア」は、そうした個々の内面的な世界を引き出し、具体化させていく、不思議な世界への入口である。

子どもたちは、最初の場面で、人が通ることができるほどの大きさの「どこでもドア」に出会う。「自分がドアを開くとそこは…」などと想像したりそれを交流したりする活動によって内面的な「世界」をふくらませたい。

プロセスでは、その夢を具体化させ、どのような方法で表現するのか決めさせ、活動についてのおおよその見通しを立てる。ま

た、「どこでもドア」を開くと目の前に自分のつくり出した世界が大きく広がる楽しさに気づかせたり、さらに、その他のさまざまな材料の特性について実際にさわったり加工したりする活動を保障する。

2 指導目標

- (1) 「どこでもドア」を見て、自分の行きたいと願う場所についてイメージをふくらませる体験を味わわせる。
- (2) 想像した世界を表現する材料を自ら用い、その特性や表現方法を確認しながら構想し、表わすことができる。
- (3) 構想したことを自分のことばで話したり、友達の話の話を聞いたりすることで、互いの表し方の工夫やよさ、違いに気づくことができる。

3 指導の計画

- (1) 「どこでもドア」との出会い (0.5時間)
 - ・「どこでもドア」と出会うことにより、自分のいきたいと思う場所についての想像をふくらませ、どんな世界をつくるのか考え、決める。
- (2) 行きたい場所を表す(5時間本時4/5)
 - ・色々な表現用具や材料で表す。
 - ・試行錯誤しながら細部の表し方を検討し、工夫する。
- (3) 交流する(0.5時間)
 - ・自分のつくった世界を紹介し合い、お互いのよさや違いを認め合う。

4 本時の目標

- (1) ドアの向こうの世界を発表したり構想したりし、思いのままのイメージに応じた表し方を工夫する。
- (2) 自分のイメージに向けて構想し、表せたかを振り返り、つくることのできる。

児童（生徒）の活動の流れ	指導上の留意点（支援や評価等）
<p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>もっと工夫して行きたいところ(自分の世界)をつくらう!</p> </div> <p>○工夫したいことを交流し、活動の見通しをもつ。</p> <p>○いろいろな用具や材料を使い、効果を確認しながら、行きたい場所のイメージを行きつもどりつしながらつくる。</p> <p>○本時の学習を振り返り、工夫したことや友達の工夫でよいと思ったことを交流し合う。</p>	<p>○めあてを確認した後、子どもの意欲・期待感が高まる演出をする。 ※プロジェクターの使用</p> <p>○多様な思いや考えを引き出し、思考を促す。</p> <p>○さまざまな材料の特性を模索しながらつくる。</p> <p>○試行のプロセスが実現できたかどうかの声かけをする。</p>

学習の主題 見方・感じ方を高める

『生の鑑賞活動』

題材名 「あさひかわ彫刻散歩」



北海道教育大学
附属旭川小学校

指導者 泉 大吾

1 学習活動の意図と可能性

子どもが美的な価値についての見方や感じ方を高めるために能動的な鑑賞活動を設定する。「彫刻の街旭川」において優れた彫刻作品は街のあちこちに見られる。しかし、子どもたちはその優れた表現に目を向け、味わうことはほとんどない。

そこで、本題材の価値となる美しさを「風景・生活における彫刻の味わい」とし、造形活動のプロセスとして、子どもが実際に作品に触れたり、風景・生活と結びつけた写真に表したりすることで作品そのものの対話に親しませたい。さらに、「この作品ならこういう風景で」という鑑賞した思いを友と語り合う手立てを工夫することで、見方、感じ方に共感できるようにする。また、家庭との連携を図り、さまざまな視点で見た作品も鑑賞の対象として扱う。

本時の活動においても、実際の彫刻作品に触れ、味わわせることによって、彫刻そのもののよさに浸らせたい。

2 指導目標

- (1) 旭川市内の代表的な彫刻を鑑賞し、作品から直感的に感じたことや思ったことを交流することで、風景や生活に潤いを与える彫刻のよさを味わい、美しい表現に対する見方や感じ方を深めることができる。

3 指導の計画

- (1) 題材との出会い・学ぶめあてをもつ
 - ・旭川彫刻マップを見て思いを深める。
- (2) 能動的な鑑賞活動
 - ・代表的な作品に触れたり、ポーズをまねたりして楽しむ。
 - ・お気に入りの視点から写真を撮り、風景や街並みと重ね合わせて美しさを味わう。

＜家庭との連携＞

- (3) 朝や夕暮れ、放課後の作品も味わえるように家庭と連携をとる

- (4) 鑑賞の高め合い・振り返り
 - ・作品の直感的に感じたことの交流から本題材で求める美しさ「風景や生活における彫刻の味わい」について親しみ、よさを認め合う。

4 本時の目標

- (1) 実際に彫刻作品に触れたり、見た感じについて交流することで彫刻そのもののよさを味わおうとする
- (2) 身近な彫刻作品から感じたり思ったりしたことを交流し、風景や生活とのかかわりを味わい楽しむことができる。

児童（生徒）の活動の流れ	指導上の留意点（支援や評価等）
<p>○前時の鑑賞活動の様子を振り返り、鑑賞活動のよさを認め合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を見ながら鑑賞の様子を交流する 	<p>○鑑賞活動のよさの紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に対して能動的に鑑賞活動を進めていたか。
<p>彫刻作品から感じたことを伝え合い、風景や生活とのかかわりを味わおう</p>	
<p>○交流の視点を提示し、実際に一つの作品での交流を例示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の彫刻を見て、感じたことを述べ合う <p>○交流グループで写真や鑑賞カードを見合いながらこれまでの鑑賞での思いを話し合う。</p> <p>○教師や児童が写した作品の映像を見合い、さらに美しい表現を味わう。</p> <p>○鑑賞活動を振り返り、自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに見方、感じ方の変容を記述し、発表する。 	<p>＜交流の視点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実際の彫刻作品 <ul style="list-style-type: none"> ・直接的に感じたこと・彫刻のよさ ■これまでの鑑賞活動から <p>○見取りを生かしグループへの助言をする。</p> <p>○カードへの記述を即時に評価し、見方、感じ方の高まりの著しい子どもを全体に紹介する。</p>

学習の主題

木と対話しながら形を彫り出す
—生の触覚から—

題材名

「木が
語りかけるもの」



旭川市立神楽中学校
指導者 大坪 卓司

1 学習活動の意図と可能性

素材と出会う、触れ合う。何かを生み出す材料としての思考の前で、私たちはモノとの『生な出会い』から多くのことを感じ・考えることができる。本題材では、素材とする木が語りかけるものを生に感じこれらをイメージ化させ、彫る・削るという操作を行き来する中で形を生み出させる。

ナイフや彫刻刀を手に刃物特有の緊張感がある中で彫り・削らせる活動からは、刃の角度による抵抗・削れる量の違い、木目との関係、硬さを行為を通して認識させることができる。刃先から手を伝わり感じることで適度な素材の抵抗感・削り取る感じ、削った後に生み出される木目の美しさは次の彫り・削りに対する意欲を誘発し、形を創出していく原動力ともなる。素材を生に感じ、観察し、削る過程の中から自らの「できる範囲・表現の可能性」を感じ・考えさせる。このような素材の特性や表現の限界の生な理解は、

生み出そうとする・出される形の構想にも大きな影響を与える。素材との『生な出会い』から感じたこと、これをもとにイメージしたこと、そして表現のための技能の獲得と意欲化を密接に関連させながら追究させることを目指す。

2 指導の目標

- (1) 彫る・削る行為を通じた素材との出会いから感じることを大切にして、意欲的に追究に取り組ませる。
- (2) 木を彫る・削る中で主題へのイメージを広げさせ、形を発見・構想する。
- (3) 形を生み出していく中で感じた素材の特性に応じて、彫る・削る技能を高めさせる。
- (4) 他者の作品を見ることにより、作品が感じさせるイメージや他者の個性、素材の違いを感じ取らせる。

3 指導の計画（全6時間）

- (1) 木との出会い—色々な彫り方・削り方を試しその感じを味わい、素材の特性、語りかけるものを感じる—（1時間）
- (2) 木に息吹を吹き込む—イメージする形を構想し、彫り・削りだす・形の創出を楽しむ味わう—（5時間 本時2/5）

4 本時の目標

- (1) イメージする形を彫り・削り出すように努力する。
- (2) 彫る・削るなかで、木のもつ抵抗・硬さ、木目や肌合いの美しさを感じ取りながら追求することができる。

児童（生徒）の活動の流れ	指導上の留意点（支援や評価等）
<p>○前時までの確認と本時の手順など内容を確認する。</p> <p>○「木が語りかけるもの」を感じながらイメージする形を構想し彫り・削りだす。 ・これまでの経験を生かし道具や用具の扱いを工夫して形を彫り・削り出す。</p> <p>○活動を振り返り、感じたことを書きとめる ・彫り・削りの中で感じたこと・考えたこと、生み出されてきた形についてメモする。</p>	<p>○木を選んだ理由、どのようなことを感じて・想起したのか振り返らせ、そのイメージを大切にしながら彫る・削ることができるようにする。（感じ取り・気付き・思い・イメージを大切にさせる）</p> <p>○子どものイメージ・感じ取りにそって支援する。（こんな風に感じる・見えるよなど）</p> <p>○道具や用具の操作、彫り・削り方など安全面について個別に指導する。</p> <p>○生な感じ・気付きをメモさせることで、感覚を鋭敏にすることを意識させ、今後の追究に向けて意欲化を図ることができるようにする。</p>

学習の主題

見えないものを見よう「思いを生に感じて」
-生のプロセス-

題材名 「水を感じて
流れを視る」



旭川市立緑が丘中学校
指導者 藤井真規子

1 学習活動の意図と可能性

本題材では「枯山水」のもつ独特の空間構成の仕方・考え方をもとに制作・追究を進めていく。ここでは、「水無き所に流れを感じる」という観念性が要求される。一般に観念は概念として、生の対極にあるものと意識されることが多い。しかし、このような目に見えないものを見（感じ）ようとして、自分の思い・イメージをある場所に顕現させるためには、イメージ（想起）として、あたかもそこにあるように見ようとする観念の生性が要求されるのである。外面的な特徴としてのリアルな見えではなく、イメージを見（感じ）るのである。

指導のプロセスでは、生徒が共同で石を立てたり置いたりするなど、対話しながら互いのイメージすり合わせ、観念の共有を図りながら共同の思いを創りあげる。そのため素材の語りかけや配置に浸りながら空間・時間、物質の大小とその感じなどの視点を移動しつつ、他者の眼差しや意見、イメージを比較しながら枯山水への造形化を図る。

2 指導目標

- (1) 空間への配置、構成によって生じる目

には見えないものを見（感じ）ようと、互いのイメージを積極的に比較させ、意欲的に追究に取り組みさせる。

- (2) 枯山水という水無くして水の表情を楽しむ中で、見えないものを見（感じ）るイメージ力と観念性からの「生性」を養う。
- (3) 枯山水という虚構・象徴の自然と風景のイメージを行き来させ、試行錯誤の中で具体化していく生性とそれに対応する空間構成ができるようにする。
- (4) 他者の感じ方や意見、イメージを比較して互いに共通する部分と差異に気付かせる。

3 指導の計画<全5時間>

- (1) オリエンテーション（1時間）
- ・「作庭記」における庭（自然）の考え方や空間構成の例を感じ取る
 - ・提示したモデルとなる庭（枯山水）から気に入ったものを選ぶ（同じ庭を選んだ生徒同士が3～4人のグループを構成する）
- (2) 庭づくり（3.5時間 本時1/3.5）
- ・粘土を土台に敷きつめながら自然をイメージ（想起）し、最初の石を立てる。
 - ・他者と交流し、モデルとなる庭と自然の風景、見えた・感じたことを行き来しながら素材を配置し、枯山水の造形化を図る。
- (3) 交流（0.5時間）
- ・他のグループの庭から見えないものを感じ取りそれぞれの作品の自然のイメージを味わう

4 本時の目標

- (1) 他者（素材・友人・私）と対話しながら空間・時間、物質の大小とその感じなどを吟味し、石の配置を考えることができる。

児童（生徒）の活動の流れ	指導上の留意点（支援や評価等）
<p>○前時までの確認と本時（配置1）の内容を確認する。</p> <p>○互いに意見を述べ合いながらモデルとなる庭と自然の風景のイメージを比較しながら最初に立てる石としての要素を吟味し、選び出す。</p> <p>・試行錯誤しながら見えるもの・感じるものを互いに交流し、石の配置を考える</p>	<p>○選んだ庭の確認（気付きをもとに大切にしたいこと・動勢などを確認させる。はじめの石について確認させる）</p> <p>○イメージ（想起）を広げ・深める石を選ばせるようにする。</p> <p>○他者と対話し、イメージをすり合わせながら決定させるようにする。</p>

学習の主題

素材の感じに誘発・触発された版の表現
— 生の触覚・視覚 —

題材名 「変容する版の魅力」
(コラグラフ)



旭川市立東明中学校
指導者 渡邊 万紀

1 学習活動の意図と可能性

造形表現の学習は材料や素材との生な出会いから始まるといっても過言ではない。材料や素材の特性や特質を感性で受けとめ、対話しながら直接モノに導かれ表現していくのである。本題材では、様々な凹凸を手と目で味わいながら組み合わせ、コラグラフの技法で版として構成させる。

イメージの源泉として用意した音色やリズムが異なる2つの曲から感じたことをもとにして工夫を重ね、時には感覚のおもむくまま材料や素材に導かれ画面を創り出す。視覚的・触覚的な刺激は想起を促し表現に関する私なりの意味(価値)を生み出す。このような行為の結果として生じる形体や刻々と変化を見せる画面の様子、素材の触感に触発されて、表現への思いを充満させ一層イメージを膨らませることができるようにする。

刷りの段階では、素材固有の色を離れた世界が出現する。これが平面の置き換えで、プ

レスのされ方や色の重なりは予測し難く、版づくりの段階では気付くことのできない偶然性が織り成す形と色との第2の出会い、驚きと発見がある。

2 指導の目標

- (1) 材料や素材の触感を大切にして、意欲的に追求に取り組ませる。
- (2) 曲、材料や素材との出会いから感じたことをもとにイメージを広げさせ、版の構想を豊かに練らせる。
- (3) 版の構想・広げたイメージにそって材料や素材を工夫した版づくりをさせる。
- (4) 他者の表現と出会い、感じ方や考え方、表現の違いを味わわせる。

3 指導の計画(全11時間)

- (1) 素材を生に感じ取る一試して感じる一(2時間)
- (2) 曲との出会い一曲に触発されイメージを広げる一(1時間)
- (3) イメージを形に表す一材料や素材の組み合わせ版づくり・刷り一(7時間 本時4/7)
- (4) 互いの作品を味わう一互いのイメージ・曲と材料や素材の関わりを味わう一(1時間)

4 本時の目標

- (1) 刷りによって生み出される変容(平面への置き換え)を驚きと発見とともに感じ取る。
- (2) 平面に置き換わった感じとイメージを比較して画面構成を更に工夫することができる。

児童(生徒)の活動の流れ	指導上の留意点(支援や評価等)
<p>○前時までの確認と本時(試し刷り)の手順など内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>いよいよ刷ってみよう。 いったいどんな風になるだろう</p> </div> <p>○試し刷り ・刷り上がった作品と出会い、平面に置換わったことの変容を感じ取り、更に版づくりに取り組む</p> <p>○刷り上りの感じを互いに述べ合う ・版の変容(刷り上がり)から感じ取れるものを互いに言い合う(相互主観の交流)</p>	<p>○触感と視覚を行き来しながら行ってきた追究を想起させて、「どうなるだろう・わくわくする」というような期待感や「ドキドキする」など緊張感をもって刷りに集中できる心構えを意識させるようにする。</p> <p>○慎重に版から版面紙を剥がさせ、イメージしていたこととの違いを感じ取らせるようにする。</p> <p>○子どもの感じ取りにそって支援する。 (「こんな風にも見えるよ」など)</p> <p>○生な感じを述べさせ、今後の版づくり(修正)に向けて意欲化を図ることができるようにする。</p>

学習の主題 対話を通して『生の鑑賞』

題材名 「共有するまなざし」



旭川市立春光台中学校
指導者 庄子 展弘

1 学習活動の意図と可能性

今までの鑑賞教育は、提供された作品にたいする情報から、作品のなかに作家が込めた意図や価値を「教えよう」、生徒に「知ってもらおう」という教育観を中心としており、教師側はあくまで、作品に関する解釈や知識を伝授する役割であった。

それに対して、ニューヨーク近代美術館(MoMA)の教育担当学芸員を12年間務めたアメリア・アレナスの提唱する対話型鑑賞法は、教師が作品に関する情報を提供することを極力控え、鑑賞者が自分で作品を凝視することから始める。自分なりに作品の意味(価値)を考え、他者との対話のなかでさらに見方を深めたり広げたりして、作品の理解という問題を解決していくという方法である。

それは、鑑賞行為を通して「一緒に美術を楽しむ」「共感し支援しよう」という教育観に基づいている。ここでは教師は生徒との対話を組織化し、交流を形成する進行役として機能する。作品の意味(価値)とは、既にできあがっているものではなく、生徒の意見を交流する過程で生成されていく。そこには、作品の題名も作者の名前も美術史も必要ない。

本時では、「なんだこれは!」と思わせるなまなましくもダイナミックな生命感にあふれた「森の掟」(岡本太郎)と、装飾的な画面構成のなかに描かれた静寂な小宇宙としての「刈田」(徳岡神泉)を提示する。あくまで3年間の対話型の鑑賞を通じて提示する多様な作品のなかの一部であり、日本美術をバランスよくとりあげたいという授業者としての思いと、対照的な作品を鑑賞することで多様な学びが深まることを期待してのことである。

生徒が作品をすみずみまで眺めた後、「これは何だろう?」「何が起きているのだろうか?」と教師は問いかける。その答えについて「何を見てそう思ったのか?」「どうしてそう思うの?」とさらに生徒に深く考えるよう促す。生徒は提供された情報からではなく、作品に直に向き合っ

て直に気づき、自分なりに感じとろうとする(作品との対話)。

多様な生徒の意見を引き出すように受容的態度で教師は対話の進行役に徹する。自分とは違う他人の意見を尊重し、その良さと違いを認めあう交流を通して、それぞれが自己の意見を見直し、他者の意見を認め、熟考することで、共感する感性を育む。また、板書を通し生徒の意見(内容や形式の質)についての確認ができるように配慮する(他者との対話)。

自分の「感じ・気づき」が認められることで、自己実現の喜びを感じると同時に、生徒は広がりや深まりのある作品解釈を知る(自己との対話)。これら三つの対話は、響きあいながら相互に影響しあい、互いに高めあい、より深い鑑賞に変容するはずである。

この対話型の鑑賞を継続することで、表現における制作においても良い影響を結ぶことが期待される(表現と鑑賞は表裏一体)。また、生涯を通じて美術を愛好し、自分なりの解釈を自分自身が生み出すという、自ら学び自ら考える「生きる力」をも育てるに違いない。

2 指導目標

- (1) 作品に対して素直に向き合い、自分なりの意味(価値)を生成しようとする。
- (2) 作品の意味(価値)を、他者との対話を通して、その多様性と深まりに気づくことができる。

3 指導の計画(全1時間)

- (1) 作品との出会い(作品との対話)
 - ・岡本太郎「森の掟」、徳岡神泉「刈田」と素直に自分なりの感じや、気づきを大切に、じっくりすみずみまで作品を眺める(生の気づき)。
- (2) 交流する(三つの対話)
 - ・対話の響きあいを通して、お互いの意見の良さや違いに気づき思索し、作品の意味(価値)を「今、ここで」自分なりに生成する。
- (3) 見つめなおす(自己との対話)
 - ・作品に対する自己の思いや解釈の変容をふり返り、自己の成長を実感する。

4 本時の目標

- (1) 作品に対して素直に向き合い、「森の掟」、「刈田」について自分なりの意味(価値)を生成しようとする。
- (2) 他者との対話を通して、作品の意味(価値)を交流しあい、お互いの意見の違いや良さを発見し、認め合い・尊重することができる。

児童(生徒)の活動の流れ	指導上の留意点(支援や評価等)
<ul style="list-style-type: none"> ○「森の掟」を投影し、じっくりすみずみまで作品を眺める。 ○感じたことを発表し対話を通して交流する。 ○作品についての解釈をまとめる。 ○「刈田」についても同様に行う。 ○最後に、2点の板書を比べて解釈の視点を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集中して作品を眺められる時間を確保する。 ○拡大図もみせて、細かい部分まで注意を喚起する。 ○受容的態度で生徒の意見を受け止め、安心感を与える。 ○多くの生徒が発言するように配慮する。 ○意見の質がわかるように板書する(フリップ・ジョイント) ○板書された意見をもとに自分の発言や思いを考慮しつつ気づいたこと、考えたことをまとめさせる。 ○「森の掟」と対の感情が芽生えるように行う ○最後に2点を比較したうえでの共通項と差異とについて考える。

提 言



提言テーマ

「幼児期の造形遊びと教師の役割」



旭川緑が丘学園
わかば幼稚園
提言者
佐藤 公文

1 はじめに

子どもが興味のある活動（遊びとは限らない）に取り組むとき、おとなの想像を超えたエネルギーを使って取り組むものである。

意欲が高まっていない状態で活動するとき、すぐ「せんせい、もうあそんでいい〜？」「せんせい、つかれたー」という言葉が返ってくる。しかし、意欲的に取り組んだ時には、終わりの時間になっても「えー、おわり？まだやりたい！」と口々に名残惜しそうに叫ぶ。

例えば、固まった土を遊びの材料に選んだとき、どこからか水を探してくる。興味が意欲をかき立て、ちょっと寒くても、汚い水でも平気。服が汚れても、濡れてもお構いなし。

つまり、幼児教育では興味を持って意欲的に取り組める活動（子どもにとっては遊び）を見つけることが最も大切なことである。

本提言では、わかば幼稚園の公開保育を振り返り、さらに、わかば幼稚園の保育活動を紹介しながら、「幼児期の造形遊びと教師の役割」を考えたい。

2 幼児期の造形遊び

(1) 造形遊び

- ①積み木、おもちゃの遊び、パズル遊び
- ②砂・泥・水など自然物を使った遊び
- ③紙や空き箱、テープなどを使い作る遊び
- ④絵の具や粘土を使う遊び
- ⑤折り紙・凧・竹とんぼなど伝承的な遊び

(2) 教師の役割

- ①遊びの援助者
遊びやすい場所作り、材料の準備、遊びの直接的な助言・手助け
- ②遊びや活動のきっかけをつくる
- ③新しい遊び、遊具、教材等の提示

3 幼稚園の実際

(1) 保育室

- 幼児が落ち着き、遊びたくなる空間
- ・木のおもちゃ
 - ・たくさんの積み木
 - ・集中できる場所

(2) 園庭

- 安全で可塑性のある空間
- ・砂場と水
 - ・泥団子も作れる
 - ・草花、木の実、落葉 など

(3) 日課・保育内容

- じっくり、たっぷり取り組めるゆったりした時間
- 全員が意欲を持って経験できる保育
 - ①わくわくタイム
→ルールと遊びの保育
 - ②どきどきタイム
→教師の願い、経験、感動の共有

(4) 地域

- 自然を全身で感じる体験
- ・川遊び
 - ・公園への散歩
 - ・畑作り
 - ・冬の雪山遊び

4 まとめ

わかば幼稚園では、「幼児らしさ」「年齢にあった活動や遊び」が、最も重要と考えている。目の前の子どもたちに合った内容であれば、楽しく遊びながら、個人の能力、集団の力が備わってくるはずである。

それだけに、遊びや保育活動中の園児の表情や言葉は保育を反省するための重要な材料である。

近年、ボディペインティングや紙版画など、かつては夢中になって取り組んだことが、以前より感動が少ないように感じることもある。幼児の感性が少し変ってきたのだろうか？私たち教師は、目の前の子どもたちをしっかりと把握し、未来を考えながら、幼児教育を進めて行かなければならないと考える。

御参加の皆さんの実践も教えて頂きながら考えていきたい。

提言テーマ **身体でいっぱい感じ、
行為する**



『生な出会い』を求めて

旭川市立高台小学校
提言者

正部川恵智子

1 はじめに

子どもは、遊びの中で工夫を凝らし、知恵を働かせ、限られた環境の中で自分たちのルールをつくりながら上手に遊ぶ。

じゃんけんのルール、ごっこ遊び、人数が足りない時の野球のルールなど、感心することも多い。また砂遊び。コップに砂をつめて型を取ろうとするときに、乾いた砂では型抜きはできない。砂が湿っていることで、コップいっぱいにぎゅっとつめること、抜くときにそっと真上にコップをはずすことなど、何度も失敗し繰り返すことで覚えていくのであろう。子どもは遊びの中でその創造性を発揮し、技能を習得していく。子どもの遊びそのものが『生』なのである。

「造形遊び」は、こうした子どもの特性を存分に利用し、子どもの自分らしい思いや願いを率直に表出させる表現活動である。

2 研究の視点

視点1 素材との出会い

「造形遊び」では、子どもたちが全感覚を働かせて、素材の感触や手応えを楽しむことが大切である。そのために、子どもたちが心を奪われ、自らの身体を使い、素材に働きかけずにはいられなくなるような出合わせ方を演出する。それが、すなわち『生な出会い』である。『生な出会い』は、想像力を働かせ、素材を自らの手で行い、目で確かめ、身体で感じ、さらには素材から教えられる『生な体験』を豊かにする大きな原動力となる。

視点2 空間への働きかけ

「造形遊び」では、空間・環境への働きかけ・働きかけられを無視することはできない。子どもたちの遊び・生活そのものが、常に空間・環境の中で成立しているものだからである。場所や空間を意識し感じ、全身を使って働きかける活動を仕組むことで、子どもの思いや願いがダイナミックに動き出し、このことが『生な体験』を味わう重要な要素となる。

視点3 他者との関わり

子どもが全身で感じ、素材や空間に働きかけて行った表現活動の過程や結果を交流し合うことで、あるいは遊びの中で対話することで、自他のよさや違いに気づき、子ども自身の感じる力がさらに磨かれる。

なお、視点1・2・3は有機的に関連しあい、絶えずフィードバックしながら相互作用し合っている。

3 指導の実際

試行錯誤しながら行ったプレ研での実践を紹介したい。

(1) 「ねん土であそぶ（1年生）」では、粉粘土の感触を確かめ、水を加えて粘土をつくる場所（素材との出会い）から授業が始まった。子どもたちは、まさに全身で粘土の感触を味わい、粉→粘土→粉と変化を続ける素材を体感しながら活動していた。

(2) 「夢色の空気を感じて…（3年生）」では、ポリ袋を媒体として、空気を感じながら遊びをつくりだしていった。導入で子どもたちは、体育館のステージいっぱいの巨大なバルーンに触れることで空気を感じ、大きなパラシュートにわくわく感を抱いた。

こうした素材から学ぶ出会いにより、子どもたちは主体的で生き生きとした活動を広げていき、『生な思考』『生な体験』を実感することができた。



4 今後の課題

『生』な授業づくりは指導者にとってかなりのパワーを要する。しかし、子どもたちの本気を引き出せたと感じたとき、ある種の感動を感じるのも事実である。指導者には常に素材となるものを敏感に感じ取り、出合わせ方や働きかけのプロセスを探っていく姿勢が不可欠であろう。

授業の中での子どもの行為とともに子どもとの対話を通して、指導者は子ども一人一人の評価を行っていく。それはまた、指導者の感性が問われる場面でもある。

提言テーマ

「生な出会い」から、つくり出す

喜びを感じる図工の学習



旭川市立北鎮小学校
提言者

村住 久恵

1 はじめに

子供たちの日常生活を見ると、既成の物を使うことが多い。それは、大人が簡単に手に入れ、与えるからである。こうした現状だからこそ、図工科を通して子供たちに「生な出会い」をさせ、心を揺り動かし、創造する喜びを感受させたいと考える。

表現Ⅱ部会では、題材選定を十分に検討し、出会いから制作活動、そして、鑑賞までのプロセスを体で感じ、創る喜びに浸ることができるよう研究を進めてきた。

2 研究の視点

視点1 感動と出合わせること

子供たちが「つくりたい、やってみたい、つたえたい・・・」などの造形活動をスタートさせるには、そのきっかけとなる「出会い」が大切であろう。子供の感性を揺さぶり、「つくりたいにはいられない」そんな出会いをさせたい。

○さまざまな材料との出会い ○新しい身体感覚との出会い ○挑むことのできる題材

視点2 試行錯誤し、造形活動に浸る場を確保すること

「やってみたい」と思った子供たちが実際につくり続け、満足できるためにはその環境が重要である。あるいは思いついたことを実現できるような環境を用意したい。

○十分な量の材料と場所 ○「うまくいかない」に対応できる支援、「もっとこうしたい」を引き出す支援

視点3 子供と子供をつなぐこと

自分の願に基づいてつくりあげることが、そのこと自体喜びである。しかし、自分のつくりあげた価値は、友と共有することで喜びが何倍にもなる。教師が褒めてやることも大切であるが、共有するコミュニケーションの場がほしい。これま

での終末の「鑑賞」場面に止まらず、多様な子供のつながりを重視した。

3 指導の実際

プレ研「はく・わたしのひみつ基地」では「生な出会い」が作品作りに大きく影響を与えると考え、次のような実践を行った。「自分の基地を持ちたい」という願いを持たせるために、基地の元となる段ボールとの出会いを教師とかくれんぼ遊びで行った。その際、細工した段ボールも用意しておき子供たちのイメージが広がる動機づけにした。予想通り子供たちは喜び、制作意欲が旺盛になり夢中になってつくり始めた。また「材料銀行」を設置し、想定しなかった材料に出合わせるにより、表し方やこだわりの幅が広がり、工夫する喜びを感じることができた。最後に、作品の鑑賞に遊びを取り入れて自他の作品に浸った。そして、他学年の子供たちも招待し作品に触れてもらったが、予想以上の反応で、さらにつくりあげた満足感を味わうことができた。

(1) 「生な出会い」の演出

公開授業1 「どこでもドアを開いてみると」

「自分が行ってみたいところ」を構想する手立てとしてドアを作り、ドアの向こうに広がる世界を想像させた。また、スクリーンを使い映像を通して、疑似体験をさせることにより、よりイメージが広がり、子供の造形への思いが高まってくると考える。

(2) 個に応じた支援の工夫

公開授業1では作品をつくる過程でスクリーンを使うことにより、子供たちが想像する夢の世界を広げ深めることができると考える。

(3) 発展

公開授業2「あそびにおいてよわたしの島へ」では、交流場面で島と島をどのように行き来したいか話し合いを行い、「舟を作る」「橋を架ける」など一歩加えて作品との一体感を味わわせたいと考えている。上記のような研究から、子供たちの思いや願いなどが豊かに発揮する造形活動ができると考える。

4 まとめと今後の課題

「生」に出会うことにより、子供たちは表現する喜びに触れ、本来持っている感じる心呼び起こすことができた。「新しい自分」に出会えた子供たちは、この力を次回必ず生かすことができると思われる。教師もまた、新鮮な目で題材に立ち向かわなければならないことを痛感すると同時に、子供たちを見る確かな目を養わなければならない。

提言テーマ

『生な出会い』を演出し、『創造表現の能力』を育む指導の在り方



北海道教育大学
附属旭川中学校
提言者

西岡 裕英

1. はじめに

様々な情報が交錯し、自らの感覚に当てはまるモノも各種既製として準備されている今日にあっては、自分の身体で感じ・考え・表すことへの必要感希薄で、創造の意味や意義を見出し難い現状がある。しかし、美術教育では自分で感じ・考えたことを創り出すことを重視しており、これが教科の根幹にある。中学校・表現としては、研究主題の「生の造形教育」を目指す上でも、「感じる」「想起+創造性」「変換」を具体的な視点として実践研究を進めてきた。

2. 研究の視点

視点1：「感じる（受け取る）」

対象との『生な出会い』によって感得するもの、それらが自らの内部に響き、思いや意味（価値）を誘発する。感じることは創造活動の根源であるため、（他ならぬ自らの感覚で）感受・感得することができる題材の開発が重要である。そのような視点から、題材の特性を踏まえ効果的に『生な出会い』を演出することが大切である。

◆授業⑪：「変容する版のイメージ」では、版づくり・実際に様々な材料や素材に触れる活動そのものに重要な意味がある。肌触り、特有の形を触感で感じ・確かめる体験に触発・誘発され私なりの意味（価値）が生じる。つまり、素材に導かれるかたちで、発想・イメージは広がるのである。

◆授業⑨：「木が語りかけるもの」でも、木を彫り・削る中で、道具・用具を自分の手先として扱い、刃の角度や木目による抵抗の違い、肌合い・木目の美しさなど素材の特性を生に感じる事が形のイメージ化・発見のもととなる。

◆授業⑩「水を感じて流れを視る」では、空間構成における互いの感じ、相互主観と差異をもとにして追究する。

視点2：「想起+創造性（自らの経験・体験を基に自分なりに受け取り発想し、イメージを広げる）」

これは、個に即した記憶の引き出し方、イメージの広げ方である。感じたことは身体をくぐりいろいろな記憶と融合しつつ想起として意識される。この想起と感受したこと・ものが融合しつつイメージを湧出させ、造形表現を生みだす。このような眼差しからの（その個なりの）発想の仕方、イメージ化、意味（価値）付けである。

◆授業⑪では、様々な材料や素材との出会いと導きかけを起点として方向づけられ、思考したことが、画面を構成の原動力となっている。

◆授業⑨でも、木との対話が進むに連れて（自分に対して）明らかとなってくる木の特性に導かれ、削り出す形のイメージへと進む。

視点3：「変換（見えないものが見える形に）」

私達が表現の対象とするものには、可視的な構成・構造とともに、（私が感じる）雰囲気、生命感、情感など目に見えない意味（価値）がある。これらを、個の「思い・心・身」にそって具体的な色や形を与え造形的に構成すること、目に見えるかたちに表すことが「変換」である。これらは、視点1「感じる」と視点2「想起+創造性」を行き来し、自分自身の中で確かめ・増幅する中で、動勢やリズム、形体や色彩の響き合いなど様々な要素が折り合いをつけたかたちで具体化される。

◆授業⑩では、互いの気付き・感じ取りを交流し合い、「自分の見え方」と「他者の見え方」の共通な部分と差異について、対話を軸に目に見える形に具体化していく。

3. 今後の課題

今後も『生な体験』と『生な出会い』の演出を意識した題材の開発「場の設定」が必要であると考えている。生徒には“創り出す”喜びを感得させながら創造的に考える姿勢・構えを意識させなければならない。それと同時に私達教師自身もそのような姿勢・構え、眼差しをもって、日々生徒と向き合うことが、「生の造形教育」を進める上で大切なことであると考えている。

提言テーマ

「鑑賞能力を高める3つの『対話』」



旭川市立緑が丘中学校
提言者

成田 慎司

1 はじめに

現行の学習指導要領には「『B鑑賞』の指導については、適切かつ十分な授業時数を配する」という文言が明記され「施設や文化財」「学校用図書・映像資料等」の積極的活用も示された。それらは「生きる力」を育む上で、今後鑑賞の果たす役割がより重視されることの現れと言えよう。

①作品に心を動かす。②感覚を働かせ生徒個々の視点で感じ取り発見する。③教師の投げかけや他生徒の発表に触れながら主体的に感じ・考える。④新しい意味(価値)を見いだす。～そしてこれらの活動が絡み合い進行する中で楽しさと喜びを感じる。そのような活動が生涯美を愛好する原動力となるのであり、それは中学校・鑑賞で考える「生の造形教育」の姿そのものでもある。

2 研究の視点

本研究の仮説を受け、中学校・鑑賞では『対話』を視点として実践研究を進めてきた。適切な対話の演出は生徒が「新しい意味(価値)を見いだす」ために有効だからである。「作品との対話(感じ・気づく)」「他者との対話(見いだす)」「自己との対話(見つめなおす)」, 上記の3つの対話が響き合うよう、プロセスを柔軟に扱い、活動を進行させることにより、鑑賞は深まっていくと考えた。

視点1「作品との対話(感じ・気づく)」

『生な出会い』の場面である。生徒の内面に響き、思いが湧き上がり、発見の意欲が高まる、作品の厳選・提示の工夫が重要である。

◆公開授業◆3年間を見通し厳選した中の作品提示である。作品・作者名を伏せ提示する岡本太郎「森の掟」は、表現力と様々な造形・文学的要素に満ち、心を動かす様々な発見の可能性がある。対にして提示する徳岡神泉「刈田」は一転して静の世界であり、純粋な造形的要素による画面構成が、逆に想像力をかき立てる。

◆プレ研◆畳敷きの教室に長澤廬雪の襖絵「虎図」をほぼ原寸大に再現、対面に同じく「竜図」をプロジェクターで投影。擬似的空間の演出が、生徒の心を揺り動かした。

視点2「他者との対話(見いだす)」

教師の投げかけや他生徒の発表により、自分の考えを確かなものにしたたり、新たな発見を見いだす。観念のみのキャッチボールに陥らず、あくまでも生徒個々が自分なりに感じ・考えたことを基盤とする。教師はそれらを大切に、増幅させる演出をしたい。

◆公開授業◆多様な意見を引き出すよう教師は対話の進行役に徹し、投げかけもシンプルかつ効果的なものに終始する。生徒個々が自分の考えを確かめ、発展させることで、感じ・考えたことが増幅されたり、新しい気付き・思考を得たりする。

◆プレ研◆教師が分類して掲示した「生徒が第1印象を記入したカード」を元に教師中心の対話を進めた。生徒の自分なりの言葉を受容し、全体にも語りかけるような姿勢で、他生徒への発言の浸透を促した。

視点3「自己との対話(見つめなおす)」

自分の考えを確かなものと感じさせ、さらに深い思考に向かわせる場面が、対話の中で自然に生まれることが望ましい。自問自答をしたり、内面で新たに思考が展開したりするような投げかけなども重要である。

◆公開授業◆「他者との対話(多様な思考)」での指導の在り方は「自己との対話(振り返り)」に直結する。「どうしてそう考えたの?」等の発問で、生徒は内面を見つめる。それらを学習カードにまとめていくことが、自己を深める振り返りとなる。

◆プレ研◆第1印象を記入したカードの掲示や感想や自己評価の記述は、他者の感じ方・考え方を広く知りながら自分なりの感じ方・考え方を振り返る一助となった。

3 成果と今後の課題

「対話」を視点とした授業の積み重ねを通し、自分の感じたことや発見を意欲的に発表したり、作品鑑賞への意欲や期待感をふくらませたりする生徒が増加しつつあることが大きな成果と言える。豊かな感性に満ち、作品や自己を深く見つめ、鑑賞に喜びを感じる能力は、生徒の発達段階に応じた、作品の厳選・提示の工夫・対話による指導の積み重ねにより育まれる。教師側は、作品を新鮮に感じ、深く理解した上で作品提示や投げかけを工夫し、受容的態度を持って生徒と関わることを基本姿勢とし、研鑽を継続しなければならない。

提言テーマ

「五感」を切り口とした造形活動のあり方
～石を感じる造形遊び～



当麻町立当麻小学校
提言者
山口 貴大

1. はじめに

これからの図工・美術教育では、教師の作品主義や画一的な指導姿勢から脱して、「美術教育で何を育てるのか」を明確にした上で、一人一人の個に応じた教育の充実に努めなければならない。子どもの個性を生かす学習展開を進めるためには、子ども自身の見方、考え方、感じ方をベースにした主体的な活動が行われるように教師の指導観を転換する必要がある。子どもの表現は、概念からではなく、自分が直に感じる、受け取る、見つける、考えるという「経験」から始まる。このように「五感」を通しての経験の蓄積が表現の糧になる。だから「五感」を働かせる体験を造形活動の根底に据えることで、自己表現の喜びを味わえる造形活動に転換していくことができると考える。

2. 研究の視点

視点1：感じ取る・体感する

導入段階での題材や教材との出合わせ方の工夫が重要である。つまり五感が響き合い、心が揺り動かされる出会いの場を設定することにより、表現欲求や発想が生み出される源となっている。このためには五感を働かせることができる題材開発や直接的な対象への出合わせ方や発問の工夫が大切である。また、直接体験の工夫や人・対象・場所と語り合う場を考えることも大切である。

視点2：出会いから始まる「過程」の学び重視

学ぶ楽しさや成就感を味わえる学習過程の工夫や個の見方、考え方の実態把握や個を生かす支援の工夫が重要である。このためには、過去実践した身体で感じ取る題材を掘り起こす一方で、子ども

の立場や見方、感じ方に近寄って、身体を通して学びの過程の具体化に取り組む必要性がある。子どもの目の高さで手探りし、子どもの心に落ちる具体的な手立てを探らなければ授業づくりにはつながらないと考える。

視点3：個に応じた共感的指導

指導においては、児童・生徒個々の「こだわり」や「心の動き」を教師は常に把握しながら個の思いを受け止め、共感的な姿勢を基本においた指導を行うことが大切であり、導入・展開における指導と評価の一体化を図っていかなければならないと考える。

3. 指導の実際

低学年の造形遊びにおける材料は、「思いのままに作る」など可塑性に富むものが望まれることがあるが、「石」そのものは決して扱いやすい材料とはいえず、また、この「積み上げる」行為への意欲も個々の児童によっての相違があろう。個々の児童がもつ「思い」が「石積み」に託され、さらに「積む」行為を重ねることにより「確かな思い」をもち、自らが能動的な造形活動を展開する原動力を生産する。教師も一緒に遊びかかわりながら、素材を生かし、素材から五感を通して体全体で感じる活動を目指し、「積む」というシンプルな行為に絞り取り組んできた。

この「石」を使った造形遊びは、児童が手や体全体の感覚を働かせながら、かたちや大きさ・色・材質等に直接接触れる中で生じた「生(なま)性」が強い「思い」や「想」を生み、活動のエネルギーとなり、豊かな造形活動が行われることが期待される。

4. まとめと今後の課題

「五感」という観点から題材を十分に知った上で指導法を考えるという原理原則に立ち返り、子どもの行為性に焦点をあて、教材との出会いや探索のプロセスのあり方を探る取り組みの意義は極めて大きいと考える。

今後は「五感」を中核に据えた指導と評価について、系統的に検証する必要があるだろう。

提言テーマ

「子どもがつくりたいと思うように…」



沼田町立沼田小学校
提言者

幸田 尚子

1 はじめに

もし図工の時間に「つくりたいものを自由につくっていいよ」と言われたら・・・。

「つくりたいものをつくる」ことは、一見簡単そうに見えて、とても難しいことです。なぜなら、「つくりたいものをつくる」ことが成り立つためには、まずつくり手である子どもたちが「つくりたい」というワクワクした気持ちを持つことが大前提となるからです。また、焦点を絞って想像の範囲をはっきりさせ、その中で自由に子どもたちが想像・表現できるようこちらの明確な目線も必要となります。子どもがつくりたいと思えるように、私たちには日々のふれあいの中から子どもたちにとって興味あることを探り、ワクワクしそうな題材を探し（もちろん自分にとって魅力あるもの）、材料や題材との出会いを大切に・・・等の努力が必要です。もし自分の予想が当たって子どもたちが「つくりたい」と思い「つくる」ことが実現できたら、この努力はとても楽しい努力です。以下に、楽しい努力を紹介します。

2 日々の実践から

～焦点を絞って、その中で自由に想像する～

思い出を飾ろう

(3種類のフレームデザインから自分がつくりたいものを選びアレンジしてつくり上げる)

100円ショップを利用。3種類のつくり方(ペイント・木調粘土・アクリル板)から自分のつくりたい様式を選び、それぞれ手を加えてオリジナルフレームを作成し、最後に思い出の写真を入れて完成です。

わたしのいす

(材料を木に限定し、あとはつくる手順も大きさも自由)

材料を探しながらイメージを膨らませる子、切り出した偶然の形から次の形を思いつく子・・・

手と足と頭を使ってつくりたいものを追いかける活動となりました。

楽しい?制約～
12 Cubes～

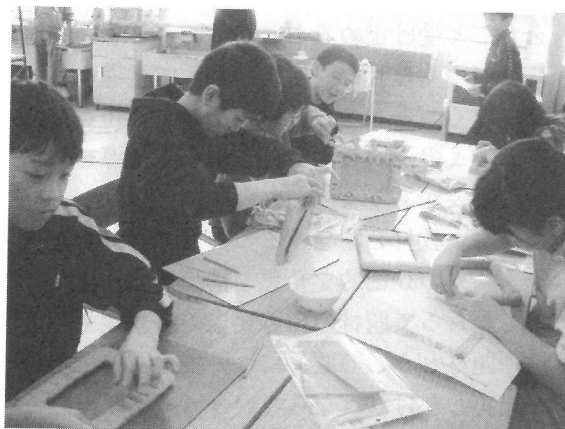
(制約するという形で焦点を絞った中での表現)

私たちは、何であれ様々な制約の中で活動しており、それがあからこそ持っている感性を表現できることもあります。「見立て」をしなければなりつつある6年生の子どもたちに「2つの制約」を示し、その中で立体(写真)と文字デザインで「意味あるもの」を表現することを提案しました。

3 おわりに

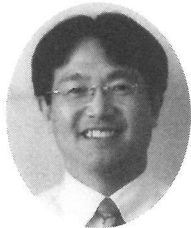
図工の時間は、私たちにとっては子どもの気持ちと関わる場であり、子どもにとっては自分の思いを表現する場(ちょっと大げさに言うと、こだわりを持って試行錯誤しながら自己実現に向かう場=人として成長する場)なのだと思います。そこでもし、「つくりたい」と思いながら「つくり」出し、それに対して自分でO.K.を出せたなら、こんな素晴らしいことはないでしょう。

私たちは、環境を整えたり(「安心して発想していいんだよ」という場をつくること)技術を教える(必要なときに示す)ことはできるけれど、感性は教えられるものではありません。けれども、図工の時間子どもたちが「つくりたい」と思えるように、子どもとの関わりを通してその子の感性を認め、見守ることはできます。図工の好きな子とそうじゃない子、のってるモードの子とのらないモードの子・・・いろいろですが、一人でも多くのこどもが「つくりたい」と思えるように、肩肘を張らないで、まず自ら楽しんで、試して、時には子どもから発見させられながら子どもに寄り添う姿勢で図工の時間に向き合ってみませんか。



提言テーマ 「色彩と形の学習」

一人一人が独自の形や色彩を表現し、達成する喜びを味わう指導のあり方



札幌市立
あいの里東中学校
提言者

向井 正樹

1. はじめに

中学生は自己にめざめ内面世界を持ち始める大切な時期といわれます。

しかし、現代の生活環境や情報は子どもたちの自立への意欲を失わせたり、心の発達を阻害し、深刻な心のゆがみの原因になってはいないでしょうか。図画工作や美術は創造的にものをつくる活動をとおして、豊かな心と知性を持ち、物事を実践していく人間を育てることをめざしています。そういう意味で、美術教育の有用性について再確認する必要があります。

自己を表現し、達成する活動を通して、他人と共感できる喜びをめざした魅力のある教材の開発、評価を含めた効果的な指導の工夫に努めるとともに、現実社会を支える原動力としての創造的な学力について、理解を図ることも重要な課題だと考えます。

2 研究の視点

- (1) 自分独自のものをつくり出す楽しさが造形活動の根元的な力であれば、生徒の発想構想を丸ごと受け止めることが大切だと思います。教師がつくらせたい形をめざして指導するのではなく、一人一人の思いや考えに視点をあて、他との違いを大切に支援する指導を構築する必要があります。
- (2) 新しい教材を開発することも大切ですが、一人一人の独創的な発想・構想を引き出すことをねらって題材の指導要素の系統性や発展性、題材どうしの関係について検討し、指導を充実しなければならないと考えます。
- (3) 授業の活動目標を具体的に明確に提示し、個々の表現の違いやよいところを素直に認め

合い、かつ、目標に対して自分自身の技能の高まりを自己評価できるように指導しました。

3 指導の実際

- (1) 発想のプロセスを大切に

「平面構成」の授業は、自然物や人工物を発想の手がかりにして、平面を構成し色彩の性質や配色の方法を理解し、線や面の組み合わせによって生み出される形のおもしろさを味わうことができる学習です。またポスターカラーの技法を学ぶことで、技能の高まりや達成する喜びを明確に感じ取ることができます。デザインや絵画の基礎として有効な授業の一つだと考えます。本題材では発想の切り口を視覚的な物体ではなく、味覚に求め、個々の感覚から直接、造形を引き出そうとしました。さらに一人一人が独自の形や色彩の表現を追求し楽しめるように、厚紙（ふわっとライト工作紙・スチレンボード）を積層状に重ねて立体（半立体）の要素を加えました。

- (2) 試しながらつくる～イメージーションの広がり

構成の色面を単純に切り離しただけでは積層状に立体化することにはなりません。面の高さを構想して重ね方を考えます。この過程が一人ひとりのイメージを広げていく場面であり、最も悩む場面です。何度も重ね方を試行しながら独自の表現を追求していきました。

重なりと高さを決め、彩色に入りますが、その段階で色面の強さと高さの関係が生じ、新たなイメージが表われます。生徒たちはまた制作に熱中しました。

4 まとめと今後の課題

- (1) 具象的な意味を持たない形の中に一人一人の表現が生まれ、完成に近づくにつれて表現の違いが鮮明になり、さらに没入して活動を進めることができました。
- (2) 線、面、面の高低、色彩、形という抽象的な表現要素の指導法と評価について今後も実践研究の課題としたい。

提言テーマ

見ること、感じること、考えること

～美術館の活用～



北海道教育大学
附属函館中学校
提言者

佐々木 善憲

1 はじめに

学習指導要領では、表現とともに鑑賞の重要性を説いている。少ない時数の中、鑑賞の時数確保はなかなか難しいが、見ること、感じること、考えることは、表現に通じる大切な学習活動である。表現の多様性、作者の考えやその背景を理解することで、様々な美術表現への興味・関心を高めていくことができよう。

今一度、授業での鑑賞のあり方を考えてみることで、美術館や日常生活の中での鑑賞など、生徒たちに身の回りに数多くの美術が存在していることを気づかせていくことが大切ではないだろうか。

2 研究の視点

生徒に、「美術鑑賞は特別なものではない、美術は、日常に存在している」という認識や感覚をもたせることから始めることが大切であると考えられる。特に、美術館という“本物”が存在する場をできるだけ活用し、文化・人間理解としての美術を重視し、鑑賞指導の充実を図ろうとした。主に特別展を授業で取り扱いながら、“箱”として認識されがちな美術館が、生徒にとっての“びっくり箱”“宝箱”としての存在となることを願い、実践してきた。

3 指導の実際

(1) 美術への興味・関心を高めること

年間の指導計画に美術館での鑑賞を位置づけ、美術館での学習の違和感をなくすことが第一である。美術展のポスター掲示はもちろんのこと、日常生活に存在する美術（デザイン、絵画、野外彫刻など）、TV番組など、日頃から美術へのヒントや足がかりを示すことを心がけた。

(2) 本物の良さ、美しさを味わうことの意味、感性を養うこと

作品にふれることで得る印刷物では味わえない感動、作家やその背景を知ることによって深まる時代への認識、そこから知る今の自分。何気ない感想や考えを積み重ね、本物の良さや美しさを知り、味じわい探しながら、豊かな自分づくりを進めさせたいと考えた。

(3) 鑑賞の視点（考え方）を身につけること

“見る”ことだけでは鑑賞の力は高まらない。見ることから様々な美的情報を獲得したり、自分の感じ方、考えを“知る”ことにより、“見る”“感じる”“考える”“想像する”などの力が高まっていく。“知”をどのように使い、自分の中に“知”を取り入れていくかが大切である。できれば、教師や学芸員、友達と“話しあう”機会があれば、他と“感”や“知”を共有化し、深めあうことができるだろう。

(4) 鑑賞内容とワークシートづくり

展示内容を事前に調査し、どんな視点で鑑賞させていくのか、ワークシートなどを工夫してみるのが大切である。美術館学芸員との情報交換や、教師の事前鑑賞による内容の確認とワークシートづくりの工夫などで授業の構築を心がけた。

(5) 事前・当日・事後の学習

事前に調べ学習を行うのか、当日は単に見るだけなのか、ワークシートを用いて鑑賞するのか、事後にレポートを書くのか、学芸員に質問をする機会を設けるのか、また、ゲストティーチャーを招き自分たちの疑問に答えてもらうのかなど、展示内容と授業のねらいを明確にして、ポイントを絞って実施することが大切である。

4 まとめと今後の課題

生徒の事後のレポートに書かれている感想には、美術館での鑑賞により、美術館への興味・関心が深まったとか、貴重な機会となったという喜ばしいものが多かった。

しかし、生徒の興味、関心が、常に美術鑑賞に向けられているわけではない。授業の中で、本物に出会う貴重な機会をどのように構築し、短期的、長期的な心の豊かさ、心の記憶として、自分たちの生活や生涯に働きかけることができるかが、今後も重要な課題である。

提言テーマ

卵の形を利用した立体表現
(8時間)



北海道旭川工業高校
提言者
佐藤 佳人

1. はじめに

この授業はおこなってからもう、20年近く、実施している。やめないでやってきたのは生徒が喜ぶことが第一だと思う。と同時に喜んで一生懸命やるので、クラス全員、落ちる生徒もなく、全体が充実した感じを保てるからだと思う。またその後、簡単な道具で、安価な材料費で、ここまでできるものが見つけれなかったような気がする。

卵を粘土でつくったり、デッサンする授業記録は見たことがあるのですが、抽象彫刻を考えるひとつの試みとしておこなっている記録はなかったように思うので、今回書かせてもらった。

この教材は前任校である土別高校から行ってきたもので、私の後任の伊藤先生も引き続き実践しておられた。同じ授業をやっても指導者によってできあがってくる最終的な形の相違に自分自身の立体に対する考え方を見つめ直すことができたことを思い出す。

2 研究視点

卵の形は、共通な約束を持っている。球に近く、外力に対しては抵抗が少なく、なめらかな楕円は外からの衝撃に強い構造をもっている。

自然の法則そのものがわかりやすく形象化されて、その形のなかにとじこめられた調和の美しさを持つ。今回はまず、日常見慣れている卵の形を石膏を素材として作り、その美しさを見直す。さらにその美しい調和のとれた形を利用しながら、曲面と平面、立体の要素でもある虚の空間に着目しながら、新しい調和のとれた、秩序ある形を求めさせ、立体作品の造形要素を理解させたい。

3 指導の実際

- (1) 紙コップに石膏を作っておく。
- (2) 卵の形をつくる。
道具 カッター
耐水ペーパーで仕上げ
(大きさは鶏の卵より大きくても良い)
- (3) 参考作品のスライド
立体作品のスライド
(ムーア・ブランク・シュ・アルプなど)
今回の抽象という意味の説明
- (4) 油粘土を与え、試作品づくり、簡単なスケッチ程度・なかなか考えがまとまらない生徒には、試しに針金、カッターなどで切断させ、以外な形を発見させることから考えさせる。
- (5) 卵の形になった石膏にカッティング作業を始める。

(もったいなく思い、なかなかカッターをいれないのであるがその緊張感は大切にしたい。新しいものを作り出す醍醐味だと思う)

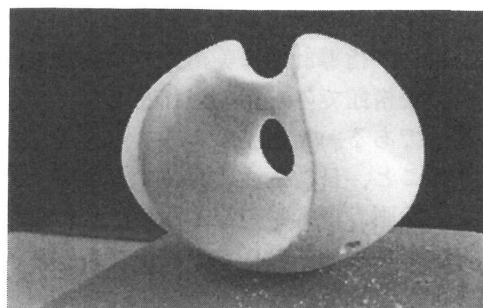
道具 カッター・彫刻刀・耐水ペーパー

(5)の作業での留意点

- ・卵の形の曲面とカッティングした面とのぶつかりかたはどうするのかあやふやにしないこと。
 - ・卵の形を利用する(どこまでカッティングできるのか。)
 - ・石膏にあてる水分の調節
- (6) 完成作品は台座に設置
写真を撮り、プロジェクターで全員の作品を鑑賞してまとめる。

4 まとめと今後の課題

- (1) 私は以上の制約のなかでやっているが、
 - ・卵の形を切断して、繋げる。
 - ・溶いた石膏をふりかける。
 - ・電動ドリル・ルーターの使用など条件を変えればまた違ったことも勉強できるように思います。



提言テーマ

教科内ジャンクションの試行

－工芸「考え、作り、使う」の取り込み－



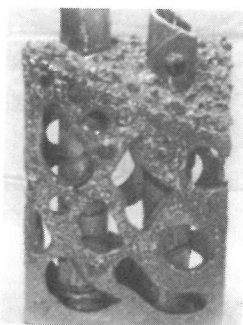
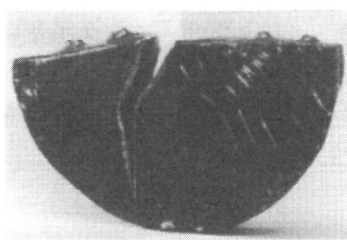
旭川藤女子高等学校
提言者
西田 武文

本校は、知・徳・体のバランスのとれた教育を目指し、特に情操教育を押しすすめるために昭和58年から工芸科目を開設し、芸術教科4科目【音楽、書道、美術、工芸】を揃えている。

現在の教育課程では、1年次2単位必修（芸術4科目より選択）2，3年次は、他教科を含めた選択で2単位ずつの選択となり、卒業時まで2～6単位の修得になる。芸術教科を複数修得することは出来ない。

工芸は、開設以来、地元へ根ざし対象生徒や設備などを考慮し、陶芸を中心に授業を展開している。開設当初より個人プロジェクトとして、生徒各自の計画立案による大作の創作を推し進め、授業選択者にも公募展への出品を挑戦させている。

3年生個人プロジェクト作品



その様な中で、新たな取り組みとして、日本文化《茶道》をテーマに芸術教科の枠を取り払った教科内でのジャンクションを一部で始めた。

工芸教育の根幹をなすものは、「考え、作り、使う」つまり用の美を体験することにある。

生活雑器が題材の授業の中では、「考え、作り」までで「使う」の場面は、出来上がった作品の鑑賞どまりで、使用する部分は家庭に持ち帰った後、各自個人での体験であった。

工芸の導入部分の題材としてこの3点をすべて体験出来ることは、教科の動機付けとして、茶道

は大変有効である。陶芸は、「抹茶々碗に始まり、抹茶々碗に終わる」と言われるように簡単でありながらも奥深い題材でもある。

《考える》導入

茶道を体験する実際の茶室にて掛け軸、花指しなど配置し、礼法を含めて空間を鑑賞、体験する。その他茶道の精神を学習し、他分野との相乗効果により意欲を高めている。

《作る》展開 陶芸分野

土の持つ魅力や素材としての特性の解説
抹茶々碗の詳細をプリント
実際の物に触れ感覚を得て制作に入る。

《使う》まとめ

各分野で学習した作品などを使用して、お茶会をまとめとして催し、「使う」を実体験する。

工芸分野（抹茶茶碗、花瓶、菓子器）

美術分野（色紙画：千切り絵、水彩）

書道分野（掛け軸：創作、篆刻）

音楽分野（箏曲）

この体験は、他の題材への意欲喚起につながるとともに茶室という空間の中で、礼法と茶道精神を身体で表す総合芸術と言える。

また、純粋芸術の面の他に工芸の役割の一つである「用の美」の創作を押しすすめるのに有効な手段である。制限の無い創作が出来る個人プロジェクトと、「用」と言う制限の中での創作活動を両方体験することは、互いに刺激し合い、創作に生かされている。

その他に家庭科の調理などと連携した、器作りなどにも展開が可能で美的・造形的感覚を養い、卒業後も日常生活の中に溶け込んでいく取り組みだと思う。



生徒作品によるお手前のまとめの授業。

1回目のお茶会の後、もてなす心で、プリントや作品を参考に各自アイデアを練る。



提言テーマ

「壁飾りの照明器具」
～銅板打ち出しによる
レリーフ～



北海道旭川東高等学校

提言者

齋藤 健昭

1 はじめに

前任者から工芸科を引き継いだとき、この教科に経験がなく、（美術科専門として）困惑してしまいましたが、幸いにして父の職業（板金業）を小さい頃より見てきた関係で、道具の使い方や金属の性質はある程度知っていました。それに、美術とはいっても金属を使っての彫塑表現が専門になっていたことが気を楽にしてくれました。とにかく始めるしかなかった。いろいろ試行錯誤をするうち銅版を使っての工芸品の制作が良いという結論を、こじつけた。

2単位のうち前半半立体表現、後半立体表現としていましたが、現在はこの題材に徹しています。工程が様々変化もあり複数の題材と重ねていく関係で生徒はよく集中して完成までたどり着きます。毎年、かなりのレベルの完成度になり、金属のもつ独特の存在感は生徒の中にそれなりの達成感や満足感をもたらすのだと思います。

2 研究の視点

いまの生徒は本格的な素材経験がなかなかできない、現状ではないかと思えます。特に危険でもあるとか施設設備の問題などさまざまな条件で困難を抱えているのは言うまでもない。幸いにして、本校の生徒は落ち着いた行動と授業に対する集中度は大変良く、危険にはそれほど神経質になることもなくやってこられ、さまざまな工夫が生まれそれを認めることで教室全体が、制作や鑑賞にごく自然に没頭していく。金属は叩く、削る、磨く、打つなど常に半端でなく高い音を伴うけど、それもまるで何も聞こえないように自分の作品に真剣に取り組んでいく。指導の仕方がもっと細やかな配慮に満ちていて、工夫があればもっと素晴らしい満足感を与えられるはずなのにと微力な自分を恥ずかしく思います。

3 指導の実際

- (1) 金属と工芸についての説明
- (2) 照明器具・壁飾りレリーフについて
- (3) 図書室にて「形」を捜す
- (4) 大きさを検討し、別に2枚コピーしておく
- (5) 留意事項を確認しておく
 - ・光源が隠れる
 - ・光が適量漏れる
 - ・レリーフの輪郭が綺麗に現れる
- (6) 確定した「形」の紙を実際に切って、パーツに分けてみる。（光が漏れる）
- (7) のりしろ？（結合部）かさねしろ？（光源を見えなくする）を確認する
- (8) (7)をコピーしておいた紙で確認
- (9) 厚紙で実際模型を作る、セロテープで仮付けしてみる
- (10) 再び分解し型紙として銅板地金取りをする
 - ・ヤスリがけ（けが、形を整える）
 - ・テクスチャーを工夫する
 - ・タガネ類の使い方、効果、道具を作る
 - ・レリーフ部のどこかに必ず七宝焼きの部品をつける
- (11) 接合 レリーフ部リベット締め、ハンダ付け
- (12) 台付け
- (13) 配線 ジャック、スイッチ、ソケット
- (14) 完成
- (15) 実際に電球を入れてみて鑑賞してまとめる

4 まとめと今後の課題

- (1) 「形」の選択、パーツ分け、テクスチャー付け、打ち出しなどの工夫、助言
- (2) もっと本格的な道具・設備があり、時間も豊富にあれば…。



MEMO

全道造形教育ネットワーク

ネットワークから発信する
北海道造形教育の未来
～ネットワークを生かした実態調査・題材開発～

本部ネットワークプロジェクトチーム

1・ネットワーク分科会について

【時刻】

- ・13:00～（昼食時間の途中から始まります）

【分科会会場】

- ・2階特活室

【参加者】

- ・各支部から最低1名の参加をお願いします。
- ・その他、関心のある方のご参加を歓迎いたします。

【討議内容】

- 本部研究部の提案について
- ・全道の児童・生徒の造形表現活動に関わる実態調査について
- ・連盟独自の題材開発について

2・分科会の趣旨

「全道に18ある北海道造形教育連盟の地区組織を研究ベースで結びつけ、もっとすばらしい北海道ならではの研究をしたい。」

このような発想から生まれた全道造形教育ネットワークは、平成13年度の全国大会で各地区による助言・提言という成果を残すことができました。

今年度のネットワーク分科会では、昨年度行った「全道の児童・生徒の造形に関わる意欲や技能などの実態調査」の結果について討議を行います。そして、このアンケートから見えてきた北海道の子どもたちに付けたい資質・能力を養うために、どのような題材が求められているのか、今後の取り組みについて話し合います。

<本部ネットワークプロジェクトチーム>

- 湯浅 大吾（札幌市東札幌小 011-821-6333）
 - ・山 薫（札幌市上野幌東小011-893-5055）
 - ・野切 卓（札幌市伏見小 011-511-2771）
- eメールアドレス hokuzou@ma5.seikyoku.ne.jp

3・ネットワークの歩み

- 【平成5年 旭川大会】
 - ・全道造形教育ネットワークの設立が承認される。
- 【平成6年 釧路大会】
 - ・各支部の現状報告や問題点の交流を行う。
- 【平成7年 千歳大会】
 - ・大会会場で各支部の作品交流を行う。
- 【平成8年 札幌大会】
 - ・全18支部の名簿を取りまとめる。地域の特徴を生かした実践交流を行う。
- 【平成9年 根室大会】
 - ・新研究主題の設定や、教育美術展の審査員派遣について話し合う。
- 【平成10年 留萌大会】
 - ・全国大会に向けての大会主題やキャッチフレーズなどについて話し合う。
- 【平成11年 オホーツク大会】
 - ・全国大会の分科会運営について、意見交流を行う。
- 【平成12年 函館大会】
 - ・全国大会での助言や提言の担当者名や内容について、各地区の状況を確認する。
- 【平成13年 全国大会・北海道大会】
 - ・全国大会の分科会で、各地区による助言や提言。
- 【平成14年 帯広・十勝大会】
 - ・今後の全道ネットワークの在り方について、意見交流を行う。
- 【平成15年 空知・滝川大会】
 - ・「全道の児童・生徒の造形に関わる意欲や技能などの実態調査」の内容や実施について検討する。

4・全道18支部名

<道央ブロック>

- ①札幌市造形教育連盟
- ②石狩造形教育連盟
- ③空知美術教育研究会
- ④連盟後志支部

<道北ブロック>

- ⑤上川造形教育研究会
- ⑥旭川市教育研究会 図工美術部
- ⑦留萌地方美術教育研究会

<道南ブロック>

- ⑧渡島美術教育研究会
- ⑨函館市美術教育研究会
- ⑩檜山造形教育研究会
- ⑪胆振造形教育研究会
- ⑫室蘭市造形教育研究会
- ⑬苫小牧市造形研究会

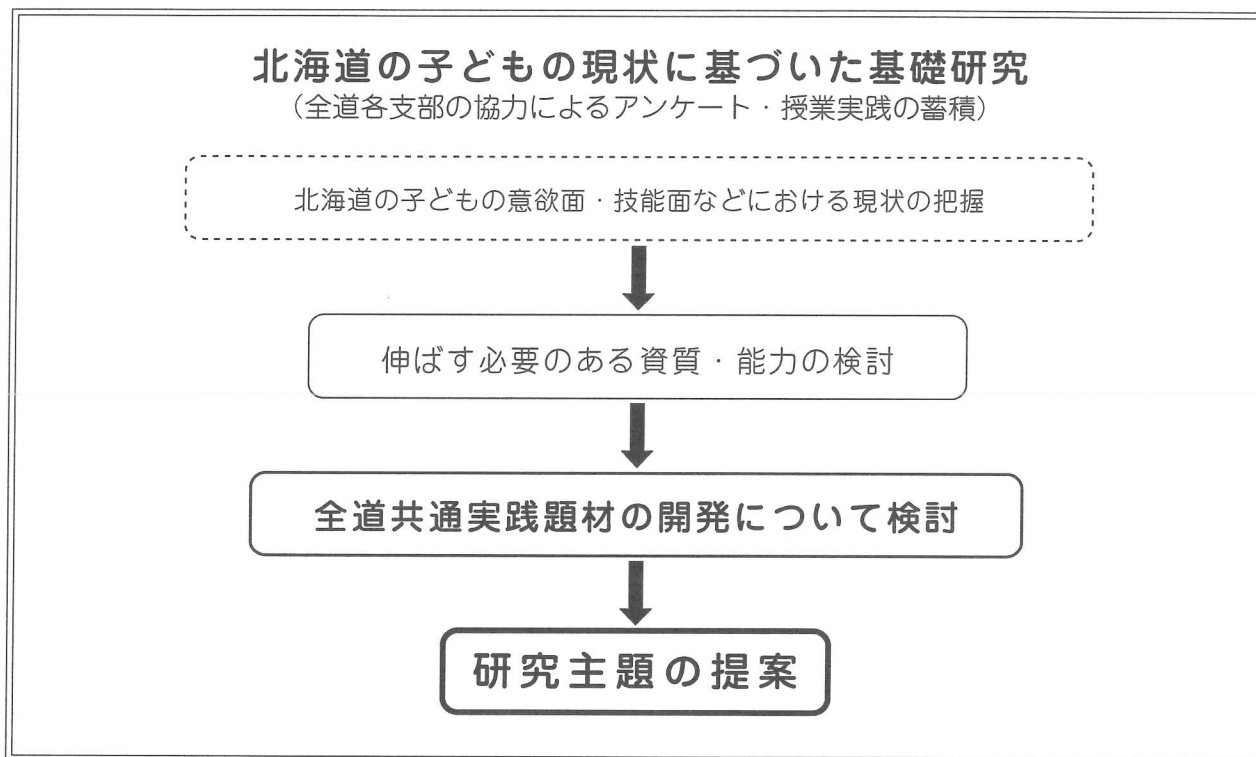
<道東ブロック>

- ⑭十勝造形サークル
- ⑮帯広市教育研究会 図工美術部会
- ⑯釧路造形教育研究会
- ⑰オホーツク造形教育連盟
- ⑱根室造形教育連盟

5・本部ネットワークプロジェクトからの提案

昨年度行った「児童・生徒の造形に関わる意欲や技能などの実態調査」の結果をもとに、北海道の児童・生徒に付けたい資質・能力について話し合います。今回の基礎研究をより確かなものにしていくために、さらにアンケートが必要な部分が明らかになれば、その内容や方法についても検討します。

また、今後の見通しとして、これらの資質・能力を付けるための題材の開発について話し合います。そして、各地区サークルで実践し、平成17年度提案予定の新研究主題につなげていきたいと考えています。



《具体的な日程》

年	全道大会	活 動 内 容
平成15年	第53回 空知大会	4月：地区委員総会にて、「基礎研究」の取組について提案 7月：空知・滝川大会のネットワーク分科会にて「基礎研究」の具体的な内容や手順についての提案と各支部の意見集約
平成16年 (今年度)	第54回 旭川大会	4月：地区委員総会にて、「北海道の子どもの現状」の中間報告 7月：旭川大会のネットワーク分科会にて、アンケート結果と全道共通実践題材についての討議
平成17年	第55回 函館大会	4月：地区委員総会にて、「北海道の子どもの現状」の最終報告 北海道造形教育連盟「新研究主題」の提案 7月：函館大会のネットワーク分科会にて、「新研究主題」についての討議
平成18年	第56回 札幌大会	4月：地区委員総会にて、「新研究主題」での具体的展開の説明 7月：札幌大会にて、「新研究主題」における授業実践の提案

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的
本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興を図るをもって目的とする
2. 事業
本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う
① 研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
② 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
③ 機関誌の刊行
④ 他の造形教育団体との連絡提携
⑤ その他造形教育振興上必要な事項
3. 会員
正会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの
4. 組織
サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する
本部 本連盟の本部は札幌に置く
5. 構成及び任務
① 役員
委員長 1名 本連盟を代表する
副委員長 若干名 委員長を補佐する
会計監査 2名 会計の監査をする
② 委員
地区委員 地区1名 地区サークルを代表する
常任委員 若干名 本連盟の運営に当たる
顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる
6. 選任
*委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する
*地区委員は地区サークルで選出する
*常任委員は委員長の委嘱による
*顧問は委員総会において委嘱する
7. 任期
役員及び委員の任期は1カ年とする、但し重任を妨げない
8. 会議
*総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する
*委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する
役員の選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する
*常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する
9. 会計
本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する
会費 正会員は一人年額2,000円を納入するものとする
サークルは、年額10,000円を納入するものとする
10. 事務局
*事務局は事務局長在勤の学校に置く
*事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する
*事務局には必要に応じて各部を設け業務を分担する
11. 年度
本連盟の事業並びに会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる
12. 規約の改廃
本規約の改廃は委員総会の議決による

(平成6年4月29日改訂)

(平成9年4月29日改訂)

平成16年度 北海道造形教育連盟名簿
役 員

役 名	氏 名	勤 務 校	役 名	氏 名	勤 務 校
委員 長	富田 泰	札幌市立八軒小長	次 長	塚本由岐子	札幌市立栄北小
副委員 長	及川 輝夫	旭川市立永山南中長	〃	石垣あけみ	〃 桑園小
〃	藤川 潔	函館市立日吉が丘小長	〃	森實 祐里	〃 三角山小
〃	大井誠一郎	別海町立別海中長	〃	寺田 実	〃 柏中
〃	土井 勝典	江別市立江別第三小長	〃	八子 正人	〃 発寒中
〃	角力山 旭	札幌市立常盤中長	〃	雄鹿 桃子	〃 手稲中
監 査	枝広 健二	岩見沢市立緑中長	〃	森岡 香子	〃 常盤中
〃	森戸 春樹	帯広市立豊成小長	〃	佐々木 暁子	〃 札幌中
事務局 長	今 裕子	札幌市立澄川西小長	〃	岩井 久根	〃 二条小
次 長	板木 武	〃 厚別通小長	部内顧問	稲實 順	〃 北小頭
〃	石川 雅昭	東海大四高	〃	小泉 信嗣	〃 福井野中頭
〃	寺嶋 文憲	札幌市立東米里小中長	〃	小柳 雄嗣	〃 手稲東小
会計部長	益村 豊	札幌市立資生館小頭	〃	田口 和男	〃 白石小
副部長	谷山 圭子	〃 白楊小	〃	大村 憲一	〃 簾舞小
〃	元茂 章子	〃 澄川南小	研究部長	川島 正夫	札幌市立幌南小
部内顧問	植木 則子	〃 福住小頭	副部長	森 美由紀	〃 いなづみ幼
〃	櫻田 豊	〃 山の手南小頭	〃	野切 卓	〃 伏見小
庶務部長	安木 尚博	〃 幌南小	〃	阿部 時彦	〃 八軒中
副部長	高向 修子	〃 中央小	〃	高橋久美子	〃 福井野中
〃	今谷 孝	〃 八軒北小	〃	澤田 範明	〃 札幌清田高
〃	椿野 衣江	〃 真栄中	次 長	細川 依子	私立丘珠幼稚園副園長
次 長	氏家 珠実	〃 日新小	〃	加藤 雅子	札幌市立屯田西小
〃	沼田 玲子	〃 常盤小	〃	堀口 基一	北海道教育大学附属札幌小
部内顧問	廣瀬 恵子	〃 本郷小長	〃	山 薫	札幌市立上野幌東小
〃	佐藤 靖	〃 栄南小頭	〃	湯浅 大吾	〃 東札幌小
〃	池田 悦子	〃 八軒北小頭	〃	櫻田 悟	〃 光陽小
〃	古谷 壽朗	〃 福移小頭	〃	小林 充裕	〃 厚別東小
広報部長	加藤 正幸	〃 東光小	〃	伊藤 正敏	〃 西白石小
副部長	東 尚典	〃 大谷地東小	〃	藪下 栄一	〃 幌西小
〃	中山 龍男	〃 手稲西中	〃	伊藤 尚	〃 米里中
次 長	山室ゆかり	〃 山鼻南小	〃	安田 仁昭	〃 西岡北中
〃	富波 修	〃 白楊小	〃	館内 徹	〃 藤野中
〃	三井 哲	〃 本通小	〃	向井 正樹	〃 あいの里東中
〃	松本 和彦	〃 発寒小	〃	石川 早苗	〃 宮の丘中
〃	平井 歩	〃 厚別北中	〃	水野 一英	北海道教育大学附属札幌中
〃	伊藤 聡美	〃 苗穂小	〃	斉藤 周	札幌開成高
部内顧問	毛馬内國夫	〃 新陽小頭	〃	鉢呂 彰敏	札幌平岸高
〃	富田 賢司	〃 丘珠中頭	〃	本庄 隆志	札幌南陵高
〃	土井 善範	〃 二条小頭	〃	松井 茂樹	札幌月寒高
〃	小林万咲彦	〃 定山溪小	〃	坂東 宏哉	札幌手稲高
〃	中居 正光	〃 東橋小	〃	川上 勉	札幌白陵高
〃	小泉 誠	〃 東光小	部内顧問	芝木 捷子	私立なかのしま幼稚園長
事業部長	福島由紀子	〃 桑園小	〃	長谷川 右	私立平和幼稚園長
副部長	白井 真澄	〃 桑園小	〃	塚野 昭臣	北海道教育大学附属札幌中副長
〃	土肥 宏充	〃 清田南小	〃	石谷 正美	札幌市立もみじ台南中頭
〃	毛利 聡	〃 藻岩南小	〃	小野 泰裕	〃 澄川中頭
〃	大高 雅子	〃 平岡緑中	〃	菅原 清貴	〃 日新小頭
〃	箭内 浩之	〃 真駒内曙小	〃	板田 恭侑	〃 南の沢小
〃	池田 武彦	〃 月寒小	〃	篠原 寛	〃 福井野小
〃	小林 知広	〃 手稲鉄北小	〃	合田 典史	〃 北辰中
〃	小野 正二	〃 伏古北小	〃	田中 潤	〃 屯田中央中
〃	八田 博之	〃 発寒小	〃	近藤 暢男	札幌星園高長
〃	二ツ山かおる	〃 平岡中央小	〃	阿部 宏行	札幌市教育センター
〃	富樫 信博	〃 藤野小	〃	勝田 真塩	札幌市教委指導担当課
〃	葛西 実	〃 北野平小			

北海道造形教育連盟地区委員

サークル名	氏名	勤務校	サークル名	氏名	勤務校
札幌市造形連盟	佐藤 靖	栄南小・頭	檜山管内造形教育研究会	田中 俊一	江差中・長
石狩造形教育連盟	桑田 正博	江別市 角山小中・長	胆振造形教育研究会	渡辺 輝夫	登別東小・長
空知美術教育研究会	中澤 孝仁	滝川市 東小	室蘭造形教育研究会	北村 哲朗	武揚小
後志教育研究会 図工美術部会	竹生 元	余市市 大川小	苫小牧教育研究会 造形研究部会	宮下 肇彰	拓勇小
上川造形教育研究会	引地 俊夫	東神楽町 志比内小・長	十勝造形サークル	下坂 正之	音更町 緑南中・長
旭川市教育研究会 図工美術部会	森 清行	光陽中	帯広市教育研究会 図工美術部会	澤田 佳子	第一中
留萌地方美術研究会	斉藤 友昭	東光小・頭	釧路造形教育連盟	高橋 潤	北陽高
渡島美術教育研究会	大場 育夫	南茅部町 臼尻小	オホーツク造形教育連盟	光岡 光彦	雄武町 沢木小・長
函館市美術教育研究会	横岸澤英二	港中	根室造形教育連盟	大井誠一郎	別海中・長

MEMO

北海道造形教育連盟顧問

氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区
秋山 修世	函館市	加藤 彬	函館市	諏訪 英雄	登別市	三浦 敏勝	函館市
阿部 賢一	北見市	金井 秀男	札幌市	関 建治	恵庭市	三谷 哲司	札幌市
石井 久	函館市	金谷 彊	函館市	高橋 瞭治	留萌市	宮川 誠一	札幌市
石崎 義政	室蘭市	上條 雄也	旭川市	滝村 虎雄	函館市	宗廣 義彦	南幌町
石塚 潔	登別市	川島 信也	旭川市	多田 紘一	札幌市	村瀬 千樫	札幌市
伊藤 恵	札幌市	窪田 恵子	札幌市	谷 勲	札幌市	森川 昭夫	札幌市
伊藤 英明	函館市	近藤 貢	函館市	田邊 康夫	滝川市	柳原 寿夫	旭川市
伊藤 善彬	札幌市	齊藤 隆博	帯広市	種市誠次郎	札幌市	山宮 喬也	北見市
稲船 正男	釧路市	佐藤 潔	釧路市	寺本 吉明	芽室町	吉田 倭雄	札幌市
遠藤 満男	苫小牧市	佐藤吉五郎	札幌市	出村 保	留萌市	吉田 英夫	北広島市
内田 暢一	浦臼町	佐藤 正幸	美唄市	出村 英和	音更町	米谷 哲夫	札幌市
江川 佳徳	札幌市	重山 恵	旭川市	鍋谷 尊之	岩見沢市	和田 弘	北広島市
繪面 和子	函館市	庄 栄一	札幌市	早弓 弘之	滝川市	若竹 隆邦	江差町
織田 達史	増毛町	芝木 秀昭	札幌市	船着 昭弘	札幌市		
奥野 郁男	札幌市	白井 罔毅	江別市	藤井 正治	札幌市		
鹿島 健	札幌市	須貝 徹	遠軽町	松島 輝男	札幌市		

北海道造形教育連盟

事務局 005-0002

札幌市南区澄川2条5丁目7-2

札幌市立澄川西小学校 (TEL 011-811-7785 FAX 011-811-0326)

事務局長 今 裕子

<http://ha5.seikyoku.ne.jp/home/hokuzou/>

Eメール hokuzou@ma5.seikyoku.ne.jp



全道造形教育研究大会開催地と研究一覧

- 第1回（札幌）1950
情操教育の一貫として本道図画工作教育の進展を図るため
- 第2回（札幌）1952
図画工作教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について
- 第3回（旭川）1953
美術教育の指導とは何か
- 第4回（函館）1954
図画工作教育実践上の諸問題について
- 第5回（釧路）1955
図画工作教育における学習指導上の問題点の解明
- 第6回（札幌）1956
造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか
- 第7回（室蘭）1957
のぞましい造形教育における具体的諸問題について
- 第8回（小樽）1958
図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか
- 第9回（帯広）1959
新段階における造形教育のあり方
- 第10回（網走）1960
本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう
- 第11回（滝川）1961
子供たちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか
- 第12回（名寄）1962
子供が生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか
- 第13回（余市）1963
子供が生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか
- 第14回（札幌）1964
子供の創造能力とは何か
- 第15回（稚内）1965
子供の創造能力とは何か
- 第16回（室蘭）1966
子供の造形能力とは何か
- 第17回（函館）1967
指導の構築を具体化する
- 第18回（苫小牧）1968
指導の構築を具体化する
- 第19回（札幌）1969
造形能力は、どのような指導によって育てられるか
- 第20回（旭川）1970
ゆたかに生きる子供の造形能力をどう育てるか
- 第21回（札幌）1971
造形能力は、どのような指導によって育てられるか
- 第22回（帯広）1972
未来に生きる子供の造形教育（生活に根ざした造形教育をどう高めるか）
- 第23回（室蘭）1973
未来に生きる子供の造形教育（たしかな表現力をどのように育てるか）
- 第24回（美幌）1974
未来に生きる子供の造形教育（ひとりひとりの子供の表現力をどう高めるか）
- 第25回（江別）1975
未来に生きる子供の造形教育（自ら創り出す力をどう育てるか）
- 第26回（岩見沢）1976
未来に生きる子供の造形教育（すべての子供に造形によるこびを）
- 第27回（札幌）1977
（第30回全国造形教育研究大会とかねる）
みずみずしい中味でしなやかな子供を育てる造形実践

- 第28回（函館）1978
みずみずしい中味でしなやかな子供を育てる
造形実践（すべての子供が生き生きととりく
む学習）
- 第29回（旭川）1979
生き生きとしたゆとりある子供を育てる図工
美術教育のあり方
- 第30回（苫小牧）1980
ひろがりと深まりの造形教育を求めて
- 第31回（釧路）1981
創りだす心をよびおこす造形教育
- 第32回（室蘭）1982
見る，知る，感ずる，そして創りあげる喜び
を
- 第33回（留萌）1983
生活とふれあい，創る心のひろがりを求める
造形活動
- 第34回（札幌）1984
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動
（わきたつ発想・たしかな表現・つくり出す
喜び）
- 第35回（函館）1985
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動
（心をこめてつくりだす子供を育てる）
- 第36回（旭川）1986
（第39回全国造形教育研究大会とかねる）
子供の心をゆり動かす造形活動（つくる心
のひろがり求めて）
- 第37回（紋別）1987
子供の心をゆり動かす造形活動（表現の喜び
にひたる子供を育てる）
- 第38回（滝川）1988
子供の心をゆり動かす造形教育（ひたむきに
創る心を育てる）
- 第39回（帯広）1989
子供の個性的表現を授ける造形教育の充実
（君はいま創造のとりこに）
- 第40回（苫小牧）1990
広がり，深まり，そして感動を！
- 第41回（札幌）1991
子供の個性的表現を授ける造形教育（子供の
つくる喜びをひろく）
- 第42回（函館）1992
子供の個性的表現を授ける造形教育の充実
（感動，そして創造する喜びを）
- 第43回（旭川）1993
思いをあたため心はずませ創る喜びを
- 第44回（釧路）1994
心ときめく，創造の喜びを求めて
- 第45回（千歳）1995
豊かな心と確かな力をはぐくむ造形活動を
- 第46回（札幌）1996
自らの心を拓く造形活動の在り方
～造形＝愛感美遊創in札幌～
- 第47回（根室）1997
感動から発し躍動する力を育む造形学習を！
- 第48回（留萌）1998
楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共
感し寄り添う指導
- 第49回（オホーツク）1999
オホーツク発 思・創・喜・感
～一人ひとりが創造的な喜びを実感するた
めに～
- 第50回（函館）2000
20世紀から21世紀へ
～心の風景（ビジョン）の発信を！～
豊かな自分づくりを生かす想創活動
- 第51回（札幌）2001
心豊かに未来に生きる造形教育
- 第52回（帯広）2002
豊かな感性をはぐくむ造形教育
- 第53回（滝川）2003
つくる喜びを実感できる造形教育

■第54回 全道造形教育研究大会(旭川大会) 役員

□大会長	富田 泰	北海道造形教育連盟委員長
□大会副委員長	及川 輝夫	北海道造形教育連盟副委員長
	藤川 潔	北海道造形教育連盟副委員長
	大井誠一郎	北海道造形教育連盟副委員長
	土井 勝典	北海道造形教育連盟副委員長
	角力山 旭	北海道造形教育連盟副委員長
□大会役員	枝広 健二	北海道造形教育連盟監査
	森戸 春樹	北海道造形教育連盟監査
	今 裕子	北海道造形教育連事務局長
	益村 豊	北海道造形教育連会計部長
	安木 尚博	北海道造形教育連庶務部長
	加藤 正幸	北海道造形教育連広報部長
	福島由紀子	北海道造形教育連事業部長
	川島 正夫	北海道造形教育連研究部長
□顧問	西田 俊夫	北海道教育長上川教育局長
	横井 博	北海道教育長上川教育局次長
	横濱 拓哉	北海道教育長上川教育局指導主幹
	千葉 俊文	北海道教育長上川教育局企画管理課長
	相澤 政義	北海道教育長上川教育局生涯学習課長
	菊地 秀夫	北海道教育長上川教育局義務教育指導班主査
	山下 善彦	旭川市教育委員会委員長
	鳥本 弘昭	旭川市教育委員会教育長
	宮森 雅司	旭川市教育委員会学校教育部長
	問谷 雅博	旭川市教育委員会学校教育部学務課長
	大久保 忠	旭川市小学校長会長
	牧野 義雄	旭川市中学校長会長
	築瀬 耕三	上川管内教育研究会会長
	佐藤 誠一	旭川市教育研究会会長
	引地 俊夫	上川造形教育研究会会長
	川島 教孝	北海道私立幼稚園協会旭川支部
	笠井 正彰	旭川市神楽中学校校長
□運営委員長	及川 輝夫	旭川市立永山南中学校長
□副運営委員長	坂野 潤治	旭川市立北門中学校長
	引地 俊夫	東神楽町立志比内小学校長
	加藤 隆	旭川市立永山小学校教頭
	川合 薫	旭川市立桜岡中学校教頭
	渡辺 盛二	旭川市立正和小学校教頭
	原 良三	旭川わかば幼稚園園長
	寺腰 精司	北海道旭川凌雲高校
□実行委員長	森 清行	旭川市立光陽中学校
□副実行委員長	長田 和代	旭川市立朝日小学校
	川原 潤	旭川市立永山南中学校
□事務局長	鈴木 敏春	旭川市立永山南中学校
□事務局次長	品田 潤	旭川市立啓北中学校
	吉野 法行	旭川市立旭川中学校
□庶務部	森 洋	旭川市立北星中学校
	藤瀬 育子	旭川市立忠和中学校
□会計	吉永 一江	旭川市立広陵中学校
	宮崎 由子	旭川市立北門中学校

あとがき

第43回全道造形教育研究旭川大会（旭川市立東五条小学校開催）の時、わたしは授業者だった。

あれから11年後の今年、第54回の大会を迎える。過去、旭川において全道大会を5回、全国大会を1度の実績を持つと聞く。こうした輝かしい実践の上に、わたしたちに向けられる視線は厳しい。混迷を深める社会状況下において、学校教育に求められる課題は多大である。こうした中において図工美術教育の目指すべき課題は何か。この「問い」へのひとつの「答え」として本研究大会は、『生(なま)の造形教育』を研究主題として、日々の実践に真摯に取り組まれる全道の皆さんに向け、問おうとするものです。

「生(なま)とは何か。それは何を視座とするのか。これを主題とするまでに幾多の論議が交わされた。また、元教育大旭川校教授の武田 薫氏からは多くのご教示ご示唆をいただき感謝すると共に大きな力となった。恐らく定義としては決して一本化されてはいないと思う。それぞれの生(なま)観をそれぞれが模索してきたように思う。

こうした意味では、「生(なま)」は造形教育の理想とするビジョンであるといえる。ただ「生(なま)」性は身体性に根拠を置く。それは「生きること」とパラレルな関係を提示する。したがって、この研究は身体における現象学的な根元性やアプリアリな物事の捉え方を造形教育に演繹しようとする試みであるといえる。

わたしたちは、身体を通し「感じる」ことから知覚を形成する。知覚はその意味を認識することにより知識として記憶される。また他者とのインタラクティブな関係においてそれを共有することで共通感覚を成立させる。「体験から感じる」ことから、生の一刻一刻を受け止め切り開いていく姿勢こそ「生きる力」の基盤であるといえよう。

研究はその途についたばかりである。よき問いは、すでにそこに答えを内包しているといわれる。ひとつひとつの授業の中に「答え」の片鱗を感受されることを願っている。この大会を通し、多くの方々からの意見をあおぎ、より充実した肉付けが図れるならば幸いです。

本大会に向け、北海道造形教育連盟を始め関係各位、諸機関からの甚大なるご支援、ご助力を賜り、ここに大会を開催できますことを心より感謝申し上げます。やはり、11年間のブランクは大きく、手探りの運営に他方面にご迷惑をおかけしたであろうと思います。

それにもかかわらず、精力的に授業研究、事業計画、運営活動に携わっていただいた多くの皆さまに重ねて感謝する次第です。

造形教育に対する「思い」や熱意こそ、連盟50有余年の歴史を通し受け継がれ、受け継ぎ、そして、受け継がれていく「無形」のバトンなのかも知れません。

さあ！旭川大会の「線」を、次期開催地の函館へドロイングしましょう！

第54回全道造形教育研究大会旭川大会

実行委員長 森 清 行



編集後記

図工美術の振興と発展を願って、今年も全道造形教育研究大会が、神楽中学校で開催できたことを図工美術部員一同大変うれしく思っております。

「生の造形教育」を授業の段階で具現化しようという試みはいかがだったでしょうか。研究の成果が今後の図工美術科の指導に生きていくことを期待しています。この紀要がみなさんの御協力によって完成できたことを改めて感謝申し上げます。

発行日	平成16年7月28日
企画・製作	旭川市教育研究会図工美術・広報部 2004

大会事務局 旭川市立永山南中学校 鈴木 敏春
〒079-8431 旭川市永山町5丁目 TEL0166-48-8117
FAX0166-48-8116

祝 第54回全道造形教育研究大会 旭川大会

21世紀にはばたく子どもたちの
感性と個性を豊かにはぐくむ

日文の教科書

新版 平成16年度用



小学校

図画工作

中学校

美術

高等学校

高	校	美	術	1
美	・ 創	造	へ	1
高	校	美	術	2
高	校	美	術	3
高	等 学 校	工 芸	Ⅰ	Ⅰ
高	等 学 校	工 芸	Ⅱ	Ⅱ
高	商 業	技		術

日本文教出版

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL. 06-6692-1265 FAX. 06-6606-5171

北海道出張所

〒001-0909 札幌市北区新琴似9条12-1-1

TEL. 011-764-1201 FAX. 011-764-0690



第54回 全道造形教育研究大会 旭川大会



真剣に表現する。
夢中で鑑賞する。

鑑賞ページがさらに充実。

新 美術の表現と鑑賞 中

A4判/144ページ+北海道の美術8ページ/カラー
定価720円(本体686円)

技法……………各領域とも作品の鑑賞から基礎技法へ進みます。
鑑賞……………見開きごとのテーマで楽しく作品を鑑賞します。
年表……………日本と世界の美術の流れを作品で見えていきます。
北海道の美術…北海道にゆかりのあるアーティストの作品や
建築に触れ、郷土の美術について理解を深めます。

新図画工作ビデオシリーズ

水さい絵のぐをつかおう 小

VHS約18分/定価9,975円(本体9,500円)

それぞれの子どもが発想を生かした自分らしい表現を展開。水彩絵の具の魅力や扱いを効果的に学習できます。

制作プロセスで学ぶ。

君もきょうからマンガ家だ! 小中

VHS約16分/定価9,975円(本体9,500円)

現在活躍している漫画家・山内ジョージさんに直接取材。実際に漫画を描きながら、漫画ができるまでを学びます。

原理がわかる。つくりかたがわかる。

アニメーションのできるまで 中

VHS約45分/定価9,975円(本体9,500円)

「基礎知識」編では、アニメーションの歴史を見ながら、原理をわかりやすく理解することができます。「作ってみよう」編では、簡単にできるものから、文化祭などを意識した上級向まで、いろいろなアニメーションを作ることができます。

図画工作科 図画工作科から「総合的な学習の時間」への提案。 小

総合的な扱いの活動事例集

低・中・高①②全4巻/A4判/各64~80ページ/カラー
各巻定価2,100円(本体2,000円)

「総合的な学習の時間」での図画工作に関する題材など、実践例を集めた写真中心のビジュアル的な誌面構成です。

小…小学校対象 中…中学校対象

子どもをとりまく問題と教育 全18巻



問題解決のヒントがきっと見つかります。

子どもの生活の分析から、子どもを支える指針まで網羅。

子どもの世界をよく知る専門家220余名が提言。

さまざまなケースに対応した具体的な事例、指導法を満載。

児童・生徒指導の充実が、教科指導の成果を高める—という編集理念のもと、本書は生まれました。時代のニーズに沿った18テーマを精選。子どもの明日を考える教育関係者や保護者の方々に、自信を持ってご提案します。



A5判/各巻定価 2,415円(本体 2,300円)

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 第1巻 | 子どもをとりまく生活環境 |
| 第2巻 | 子どもの発達課題と教育 |
| 第3巻 | 親・教師・友人と子どもの関係 |
| 第4巻 | 問題行動の見方・考え方 |
| 第5巻 | 心の病 |
| 第6巻 | いじめ |
| 第7巻 | 不登校 |
| 第8巻 | 校内暴力 |
| 第9巻 | 家庭内暴力 |
| 第10巻 | 性の問題行動 |
| 第11巻 | 自殺 |
| 第12巻 | 青春期の薬物乱用 |
| 第13巻 | 学習不適應の心理と指導 |
| 第14巻 | 学級崩壊と逸脱行動 |
| 第15巻 | 教育相談による理解と対応 |
| 第16巻 | 生徒指導のあり方 |
| 第17巻 | 保健室における養護教諭の対応 |
| 第18巻 | 問題行動へのアプローチ
(付)CD-ROM「問題行動の診断と対応」 |



開隆堂出版株式会社

◎発行物のご案内はホームページでご覧いただけます。
<http://www.kairyudo.co.jp>

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 TEL 03-5684-6118 FAX 03-5684-6155 E-mail:hanbai@kairyudo.co.jp
北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8階 TEL 011-231-0403 FAX 011-231-0404 E-mail:hokkaido@kairyudo.co.jp

感性の扉をたたく 図工・美術教材の提案。



■ 3色はり絵

青・赤・黄の3原色がつむぎ出す鮮やかな色。



■ 万華鏡

鏡に映し出された桃源郷。



■ 灯りのデザイン

光とシルエットの美しさ。



■ グラスアート

手軽にできるステンドグラスキット。



■ スクラッチ

線や点の集積が織り成す世界。

■ サンドブラスト

ガラスに浮かび上がる透明と半透明の美しいコントラスト。



小学校の図画工作、中学・高等学校の美術科向け造形教材・素材、鑑賞資料、工具、備品、および専門学校・大学向け美術教育用教材教具の販売。
取扱い商品アイテム11,000点以上。

● BSS ● 美術出版社サービスセンター

東京都新宿区市谷本村町2-19 〒162-0845

TEL:03-3260-2388

FAX:03-3267-0789

<http://www.bijutsu.co.jp>

祝

第54回全道造形教育研究大会

旭川大会

最初にお届けした教材は粘土でした・・・

教育現場と共に歩んで40年

明日の造形教育を支えます

 株式会社 **山城教材社**

旭川市4条21丁目 TEL 0166-31-1932

FAX 0166-31-6595

E-mail info@yamashiro-net.co.jp

祝 第五十四回全道造形教育研究大会 旭川大会

図工・美術教材のご用命は

ターナー色彩商品取り扱いの当社まで



■ターナーアクリルガッシュ使用作品例■

新しい日本の伝統色



株式会社アサミツ商販

〒070-0875 旭川市春光五条五丁目三一ー四

TEL (0166) 521216

FAX (0166) 541060

……販売品目……

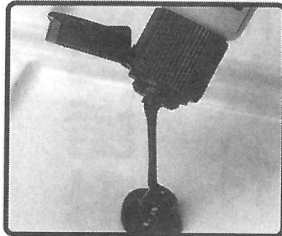
学校教育図書・教材・教具・心理検査・技術家庭
理科機器・図書館図書備品美術・工芸・パソコンソフト

時間が約35%削減できました！

「限りある授業時間を有効に使いたい。」
 多くの先生方のご意見です。
 ペンてるはそんな先生方にワンタッチキャップ
 でお応えします。



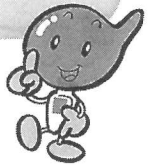
キャップをなくさない
ワンタッチキャップ



**量を加減しやすい
 細口**

細口なので、小さな子供
 でも絞り出す量の加減が
 大変しやすく、出しすぎ
 たりしません。

ペンてる 水彩
 ポリチューブ入り
 シース入り12色(白2本入り) WFC3-12 ¥1,092
 (本体価格¥1,040)



SAKURA サクラ マット水彩マルチ

12 ml ポリチューブ入り

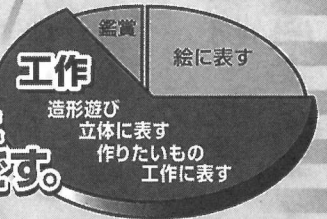
いろいろなものに描ける！
絵画から工作まで使えます。



特長

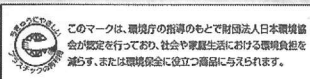
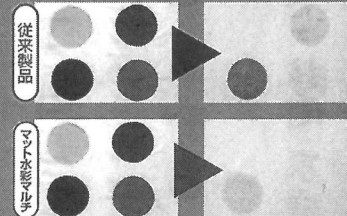
- マット水彩の優れた描画特性に、ペットボトルや牛乳パック等のいろいろなものに描ける機能を加えました。絵画用だけでなく、工作用としても使え、用途が広がりました。
- 道具や衣服の汚れが落としやすくなり、後始末も簡単になりました。
 ※プラスチックの長期保存作品には適しません。

● 図画工作授業の内容 ●

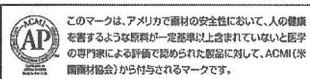


衣類に付いた汚れも
 落ちやすくなりました。

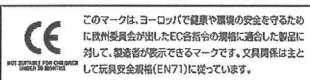
洗濯テスト(綿布)



このマークは、環境庁の指導のもとで財団法人日本環境協会が認定を行っており、社会や家庭生活における環境負担を減らす、または環境保全に役立つ商品と与えられます。



このマークは、アメリカで素材の安全性において、人の健康を害するような原料が一定基準以上含まれていないと医学の専門家による評価で認められた製品に対して、ACMI(米国製材協会)から付与されるマークです。



このマークは、ヨーロッパで健康や環境の安全を守るために欧州委員会が出したEC指令の範囲に適合した製品に対して、製造者が表示できるマークです。又、関係国は主として玩具安全規格(EN71)に従っています。



サクラ マット水彩 マルチ 12色 ¥1,365
 MWM12PT (本体価格¥1,300)



サクラ マット水彩 マルチ 15色 ¥1,732
 MWM15PT (本体価格¥1,650)



サクラ マット水彩 マルチ 18色 ¥2,205
 MWM18PT (本体価格¥2,100)

祝 第54回全道造形教育研究大会旭川大会

授業に役立つ資料を満載!

東書Eネット

Tosho Educational Network

東書Eネットは、これからの社会および教育界におけるネットワーク環境の大きな変化に対応して、インターネットを通じて学校現場への資料提供を行うネットワークです。

教育情報専門・教員専用の会員制ネットワーク

「東書Eネット」は、教育情報専門の、小学校・中学校・高校・大学の先生方専用の会員制ネットワークです。(入会金・年会費は無料)

おもな資料やデータ例

■授業に役立つ指導資料

観察実験シート、写真、アニメ、動画、ワークシート、授業プリントなど

■調べ学習に活用できる「教科書単元リンク集」

教科書の目次に対応したリンク集

■教育界の動向がわかる教育情報

新教育課程の情報や、全国の研究会情報など

■教材作成のための素材や、テキストデータ

カリキュラム例、観点別評価資料、発展的な学習のための資料など

「バーチャル展覧会」
全国の小学生の画作品が掲載されています!

会員制
ネットワーク
無料

東書Eネットへの入会・照会

URL: <http://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

E-mail: net@tokyo-shoseki.co.jp

●申込書が必要な場合は、こちらへご連絡下さい。

(東書Eネット事務局) 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 東京書籍(株)
FAX. 03-5390-6016

心があたにかくなる はなちゃん selection ぶつどうWorld

ちいさいぶつどう

おおきい

ぶつどう



モデルのはなちゃんの趣味は
仏像鑑賞。
はなちゃん流、
ほんわか、
コロコロ
仏さまとお話しましょう。

はな

エッセイ/写真/イラスト

四六判・上製本・160頁
定価:1260円(税込)
ISBN4-487-79820-5



北海道支社: 〒064-0806 札幌市中央区南6条西14-1-5 TEL.011-562-5721 FAX.011-562-5492
ホームページ: <http://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東書Eネット: <http://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

夏旅は名鉄観光で!!

思い出づくりはおまかせください!!



名鉄観光

サービス
株式会社

旭川支店

〒070-0035 旭川市5条通9丁目左1号

TEL 0166-23-4711 FAX 0166-25-4584

ペットボトルを再利用した
環境にやさしいリサイクルねんど



【ペットボトル協議会認定商品】



290円 (税込み)

特 徴

- ・缶・ビン・針金などの芯材が自由に使え、ヒビもほとんど出ません
- ・色が純白なので、絵の具やポスターカラーなどの彩色もキレイに出来ます。また水性の顔料を練り込めばカラーねんどが作れます。
- ・焼却しても有害な物質は出ません。

モデル7

山立株式会社

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸309
TEL 044(932)7913 FAX 044(932)7916

図工・美術教材

SNZ

取り扱い専門

版画プレス機 各種版画材料 彫塑・彫刻 七宝
陶芸窯 陶芸材料 染色 工作 木彫・木工
彫金・金工 製図・デザイン 絵画・工芸

明日の造形教育を指向する

 **新日本造形株式会社**

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-42-8 TEL.03(3389)1221(代) FAX.03(3389)5111
大阪支社 〒537-0003 大阪市東成区神路1-10-6 TEL.06(6974)5111(代) FAX.06(6974)2800

新・アクリル絵具

for Artist

GOLDEN

ACRYLICS

ゴールドデンアクリリックス



もう
ゴールドデンを知った私は、
は使えない。

右も、左も、おなじ色ではもの足りない。
新、個性色。ゴールドデンアクリリックス

ひとりひとり違う個性を、おなじ絵具で表現しきれぬだろうか。もっと、描きたいものがある。もっと、造りたいものがある。となりとおなじ絵具ではもの足りないあなたへの創造力に、新・アクリル絵具、ゴールドデンアクリリックス。色の伸び、発色の良さ、そして多彩なメディウム群が、アメリカのアーティスト達から絶賛を浴びた名品です。

◆ 20 ml・60 ml 150 ml 全98色 メディウム全31種

明日の色をつくる……
ターナー色彩株式会社
〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2-15-7 TEL.(06)6308-1212 FAX.(06)6305-3018
〒171-0052 東京都豊島区南長崎6-1-3 TEL.(03)3953-5161 FAX.(03)3953-5153

株式会社 美術工芸センター

私たちは、豊かな人間性を育てるための、新しい教材の開発に日々取り組んでおります。

切り絵 ガラス工芸 画材 ホエキ デザイン 螺鈿
エッチング 版画 染色
木彫 陶芸 ギャ・教材 伝統工芸
らんたん 紙漉 モビール
尺芸 ステンシル はり絵 水墨画 彫刻 皮革工芸
金属工芸 ステンダグ ラス 籐工芸 七宝焼

しょうがいらくしゅう
生涯楽習
SHOU GAI RAKU SHU

美術工芸センターホームページ
てづくり横丁!
<http://bijutukogei.co.jp>

〒175-0083 東京都板橋区徳丸7-3-1 ☎ 03-3935-8833 FAX 03-3935-8889

スリム筆洗付の
画材セット(G)

Smile
スマイル

スリム筆洗だから
約**50%**
コンパクト化
収納しやすい!



PAT.

小物等の収納に便利!
ポケット付! カビをシャットアウト!
メッシュ仕上げ!

取り扱い
簡単!

画期的なスリム筆洗付!

全ての必要な用具が
収納できます!



4槽式

(寸法)約21.5x29x7cm 通気口

新たな教材を創造し続ける
学校教材の総合メーカー

ラメ
La-mé
Safety 彫刻刀

刃は全編
よしはる製
最高級品使用!
切れ味が長持ちします!
安全カバー



おしゃれな
ラメ入り!

ワンライド
オープン!

ゴム質樹脂使用
指にフィットして
握りやすい!

は≪≡ひ

全国に広がるは≪≡ひグループ
大阪本社/東京支店/九州支店/研究所

祝 第54回全道造形教育研究大会 旭川大会

DPE 26分スピード仕上げ



婚礼・百日・誕生・入学・七五三・家族
各種記念撮影・出張撮影・商品撮影

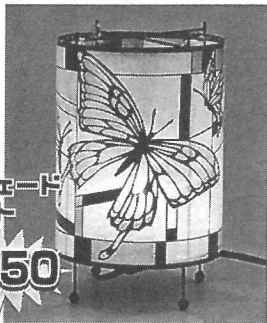
なかざわ写真場

本店 旭川市永山2条20丁目 **48-1402**

美術教材から画材まですべて揃えます!

ランプシェード
砂絵セット

¥1,250



SEデザインセット

¥3,215



画材、デザイン、
木彫、版画、彫塑、
陶芸、工芸 etc.

☆何でもお気軽にご相談ください。

株式会社 **アーテック** アート事業部
〒581-0072 大阪府八尾市久宝寺1-2-16
TEL 0729-90-5509 FAX 0729-90-5525

当社は授業状況にあった最適な教材の開発を心がけております。

プッシュカラー・プッシュボンド・卒業制作
プッシュカラー

株式会社 彩光社

東京都葛飾区宝町1-4-3 TEL 03-3694-7061 FAX 03-3695-0108

～先生のお役に立つ情報がいっぱい!!～



クラフトテリオホームページをご覧ください。

<http://www.crafteriaux.co.jp>

株式会社クラフトテリオは、自然環境への思いやりと安全につくします。

クラフトテリオは、ISO 9001/14001 の認証をダブル取得しています



図工・美術・木彫各種教材 版画材料・デザイン材料・陶芸材料

株式会社クラフトテリオ

本 社	〒577-0024 大阪府東大阪市荒本西4丁目92番1号	TEL.06-4308-1138 FAX. 06-4308-1139
東京営業所	〒107-0052 東京都港区赤坂4丁目7番16号 青果ビル4階8号室	TEL.03-3587-1138 FAX.03-3587-1181
東北営業所	〒018-3501 秋田県北秋田郡田代町岩瀬羽貫谷地20	TEL.0186-54-3598 FAX.0186-54-3463

SANKEI STUDIO



三景スタジオ
SANKEI STUDIO

2条店 // 旭川市2条12丁目 tel : 25-0864

4条店 // 旭川市4条13丁目 tel : 23-4130



昭和教材株式会社

本社 広島県廿日市市大東6-17 (〒738-0006)
 TEL (0829) 32-5111 (代) FAX (0829) 31-3111
<http://www.kyozai.co.jp>
 E-mail:sk@urban.ne.jp

東京支店 東京都板橋区舟渡2-34-5 (〒174-0041)
 TEL (03) 3967-3561 (代) FAX (03) 3967-3564
 E-mail:sktokyo@blue.ocn.ne.jp

創業明治40年
 まごころこめておもてなし

花丹会館

旭川市3条通7丁目 TEL 0166-22-1101

和風れすとらん **かふと** 旭川市3条通7丁目花月会館地下
 TEL 22-6006

お陰様で創業69周年 (昭和10年創業)



寿司
 天ぷら
 季節鍋物



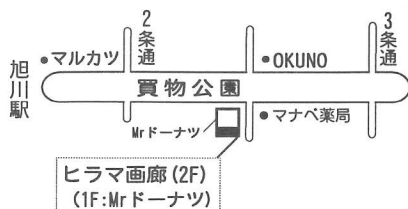
旭川市4条7丁目 ☎22-3812

営業時間 午前11:30~午後2:00 / 午後5:00~午後10:00

ヒラマ画廊

【貸画廊・2005.2006年度予約受付中】

〒070-0032
 旭川市2条8丁目左1号仲通2F
 TEL: 0166-23-9345, (FAX)9348
 E-mail: g-hirama@potato5.hokkai.net



- | | |
|---------------------|-------------|
| 7月27日(火) ~ 8月2日(月) | 盛本学史個展 |
| 8月3日(火) ~ 8月9日(月) | 旭川北高第3期美術部展 |
| 8月10日(火) ~ 8月16日(月) | 佐々木真紀個展 |
| 8月17日(火) ~ 8月23日(月) | 水無瀬けい子個展 |
| 8月24日(火) ~ 8月30日(月) | OYOYO展 |
| 8月31日(火) ~ 9月6日(月) | 2004夏展 |
| 9月7日(火) ~ 9月13日(月) | 上条雄也個展 |
| 9月14日(火) ~ 9月20日(月) | J&M二人展 |
| 9月21日(火) ~ 9月27日(月) | 純生展・会員会友小品展 |
| 9月28日(火) ~ 10月4日(月) | 佐藤道子個展 |

創造と提案、そして前進

 **大丸藤井**

〒060-8692 札幌市白石区菊水3条1丁目8番20号

電話011-818-2111 FAX011-821-5391

札幌・旭川・函館・室蘭・北見・帯広・釧路・東京・青森・仙台

 **日藤道北販売株式会社**

〒070-8071 旭川市台場1条1丁目1番8号

TEL 代表 (0166) 61-8851

FAX (0166) 61-8865

すべての子どもに学力を

日本標準

〒167-0052

東京杉並区南荻窪3-31-18

<http://www.nipponhyojun.co.jp/>

株式会社  **せいしん**
正進社

●〒112-0014東京都文京区関口1-17-8

●TEL…**03(5229)7651** ●正進社ホームページ

●FAX…**03(5229)7650** <http://www.seishinsha.co.jp/>

青葉出版

本社／〒720-0074 広島県福山市北本庄1-15-1
TEL (084) 923-4440 (代) FAX (084) 931-9351 (代)
東京支社／〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-20-11
TEL (03) 3984-3661 (代) FAX (03) 3984-3709 (代)
<http://www.aob.co.jp/>

オフィス用品の御用命は

事務用品の 双葉

旭川市宮下通24丁目
電話31-1692 FAX32-7833

株式会社 ワタナベ

旭川市6条11丁目 電話23-2609番・FAX24-2725番

富貴堂 BOOKS & ENTERTAINMENT

本店／旭川市3条通8丁目右2号 ☎26-6100
文具館／旭川市3条通8日本店隣 ☎26-7711
MEGA／旭川市2の7マルカツ6F ☎29-2888
末広店／旭川市末広4条3丁目 ☎59-2800
豊岡店／旭川市豊岡5条7丁目 ☎34-7777
南6条通店／旭川市東光8条1丁目 ☎33-7722
外商部／旭川市宮下通21丁目 ☎34-7722
本 部／旭川市宮下通21丁目 ☎34-6611

素人も
プロも
集まる
画材の
心。

洋画材料・各種額縁・絵画・掛軸・専門店
(あらゆる額縁の製作を自社工場にて承っております。御相談下さい)

額縁のピカソ

旭川市3条1丁目右10号 ☎(0166) 26-0077 FAX (0166) 26-0098

健康住宅

ユニバーサルデザインの空間づくり。

YOUトピアカコムラ

ず〜っと元気に

暮らそう。



旭川本社 / 旭川市豊岡4条3丁目・Tel: (0166) 32-3231 (代)

0120-411-296 ヨ イ エ ツ ク ロウ <http://www.youtopia.co.jp/>



設計・新築リフォーム

快適な住まいづくり

一級建築士事務所・Newソトダン工法

株式会社ビュータック山城

〒078-8336 旭川市7条通21丁目1972番地2 TEL (0166) 32-8800 FAX (0166) 32-0080

見積り無料 TEL0166-32-8800

それはそれはささやかな、空間の演出です。

季節を感じさせる風や日の光、緑の勢いのように心地よい、もうそれだけで十分。

でも、そこに少しでも自分らしさを表現できたら、もっと楽しいに違いない。

機能やデザインや技術といった視点だけでとらえずに、「好き」という気持ちで選ぶ。

手に取る。使ってみたくなる。

そんなふうに関心を動かす小さな道具たちをつくりたくて、つくりたくて、

コサインは生まれました。

あなたの好きな空間を、ひっそりと、そしてもっと素敵に演出します。

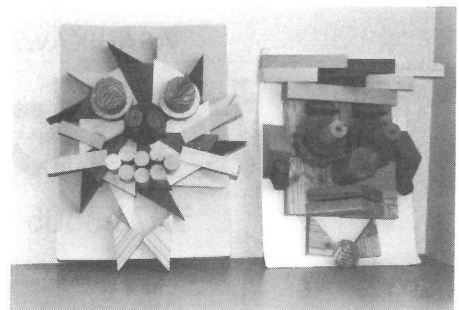
cosine

株式会社コサイン

〒079-8431 北海道旭川市永山町6丁目6-5

tel.0166-47-0100 fax.0166-47-7450

<http://www.cosine.com> mail:cosine@cd.mbn.or.jp



祝 第54回全道造形教育研究大会 旭川大会

Advanced 特別進学コース

少数精悦、受験直結の特進コース。
「進学校」に負けない実力をつけていきます。

- きめの細かい指導で国公立・有名私大進学を目指します。
- 週6日制の充実カリキュラム。放課後は午後6時まで個別指導を含めた補習。希望者には日曜日も補習を実施。
- 大手予備校のサテライト学習・模擬試験で実力養成。
- 1年次で基礎学力を養成。2年次より理系・文系に分かれ、受験を意識したより実践的な授業内容となります。

特進コースで学ぶ地方出身生徒は、三年間専用下宿を利用することができ、また放課後には先生が下宿を訪問して学習指導を行います。

License ライセンスコース

日商簿記1級・ホームヘルパー2級・
初級シスアド…3つの資格取得可能。

- 異なる3系統の資格取得が可能。専門の担当教師による指導・アドバイスにより、在学中の合格を目指します。



- パソコン・電卓・文書処理・英語検定・漢字検定など社会で求められる実務能力を習得するプログラムが充実。
- 指定された資格を取得すると、学校より表彰されます。(褒賞)

Physical ED. 体育科コース

専門知識と高いレベルの技術を習得。
スポーツに生涯携わる人材を育成。

- 水泳・スキー・初級救命士・上級救命士の資格取得に向けた授業も用意されています。
- 著名スポーツ選手を招き、特別講座を開講します。
- 就職希望者は100%就職先が決定、早稲田大学をはじめ、有名大学への進学率も多数。
- 多くのOB・OGが選手・スポーツ指導者(教員・インストラクター等)として活躍しています。
- 全国レベルの輝かしい実績を誇る部活動。

Liberal Arts 普通科コース

2年次から2つのコースに分かれて
進学・就職いずれの選択にも対応。

- 1年次は基礎学習を中心に据え、進路についてじっくり考える期間にします。
- 1年次の『個性発掘講座』は各生徒の個性を伸ばすことを目標に開設しています。全10講座あり、週1回2時間授業です。(中国語・パソコン・調理・茶道・英語・イラスト・ファンキーダンス・トランペット・収穫体験・囲碁)
- 2年次から「進学(文系・理系)コース」と「生涯学習(情報・福祉・調理・工芸)コース」に分かれ、それぞれの目的に合った学習を行います。
- 「生涯学習コース」では、多様な進路に対応するため、一人ひとりに指導が行き届く「2人担任制」を採用しています。



ASAHIKAWA UNIVERSITY SENIOR HIGH SCHOOL

旭川大学高等学校

〒079-8505 北海道旭川市永山7条16丁目3-16

TEL (0166) 48-1221 (代)

FAX (0166) 48-0740

URL: <http://www.asahikawa-uhs.ed.jp>

